



2011～2014年のあゆみ

東北とともにあゆんできた
設立からの3年。
感謝の気持ちを込めて
ご報告をいたします。

公益財団法人 地域創造基金さなぶり

The Sanaburi Foundation

2011～2014

公益財団法人 地域創造基金さなぶり



公益財団法人 地域創造基金さなぶり

発行所：〒980-0804 仙台市青葉区大町1-2-23 桜大町ビル3F
TEL 022-748-7283
FAX 022-748-7284
E-mail info@sanaburifund.org
URL http://www.sanaburifund.org

発行日：2015年1月



団体概要

設立	2011年6月20日(一般財団法人 地域創造基金みやぎとして設立)		
公益認定	2014年7月1日		
設立母体	特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター		
理事長	大滝 精一(東北大学大学院経済学研究科 教授)		
発起人	全国324人	職員数	19人(2015年1月1日現在)
設立資金	484万円	基本財産	300万円

現役員

理事長	大滝 精一 東北大学 大学院 経済学研究科 教授
副理事長	笹氣 光祚 株式会社 グラン・スポール 会長
専務理事	鈴木 祐司 公益財団法人 地域創造基金さなぶり 事務局長
理事	大槻 文郎 前 株式会社テクノプラザみやぎ 専務取締役
	後藤 尚人 岩手大学 人文社会科学部 教授
	強口 暢子 社会福祉法人 いわき市社会福祉協議会 会長
	齋藤 孝志 公益社団法人 仙台青年会議所 特別顧問
	白川 由利枝 仙台市 職員
	高橋 悦子 特定非営利活動法人 冒険あそび場 せんだい・みやぎネットワーク 理事
	土佐 昭一郎 特定非営利活動法人 ミヤギユースセンター 理事長
	野澤 令照 宮城教育大学・教育復興支援センター 副センター長
	紅邑 晶子 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPOセンター 代表理事
監事	寺田 和夫 一般財団法人 消防試験研究センター 宮城県支部 前・支部長

評議員	淺見 紀夫 株式会社 一ノ蔵 代表取締役名誉会長
	伊藤 浩子 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPOセンター 事務局長
	岩本 正敏 東北学院大学工学部 准教授
	小澤 義春 みやぎ生活協同組合くらしの安心サポート部 部長
	小野澤 瑞大 株式会社 ぎが 代表取締役
	小岩 孝子 特定非営利活動法人 FORYOUにこにこの家 代表理事
	小玉 順子 特定非営利活動法人 おおさき地域創造研究会 事務局長
	佐々木 勇 みんなの大川倶楽部株式会社 代表取締役
	鈴木 孝男 宮城大学 事業構想学部 助教
	新川 達郎 同志社大学大学院 総合政策科学研究科 教授
	深尾 昌峰 公益財団法人 京都地域創造基金 理事長 龍谷大学法学部 准教授
	間庭 洋 仙台商工会議所 専務理事
	増子 良一 イートス株式会社 代表取締役
	渡辺 元 公益財団法人 助成財団センター プログラム・ディレクター

退任役員

針生 英一 ハリウコミュニケーションズ株式会社 代表取締役	橋 眞紀子 有限会社岩沼屋ホテル 専務取締役
宗片 恵美子 特定非営利活動法人 イコールネット仙台 代表理事	齋藤 純子 特定非営利活動法人 せんだい杜の子ども劇場 代表理事
川村 志厚 経営デザイン研究所 代表	佐藤 茂 佐藤 茂 会計事務所 公認会計士

「さなぶり」とは？

「さなぶり」とは東北古来の

農村文化を表す言葉です。

広い田んぼに苗を手植えしていた時代、

無事に終わった後に田んぼの神さまと、

田植えを手伝ってくれた方々に感謝し、

五穀豊穡を祈願して催した宴のことを

指すそうです。

目次

・「さなぶり」とは？	1
・ごあいさつ	2
・地域創造基金さなぶりのあゆみ	3
・東北とともに、これまでもこれからも	4
・コミュニティ財団とは	7
・さなぶりスタッフから見た東北	8
・地域創造基金さなぶりの取り組み	12
・東北の想いに寄り添って	14
・支援先レポート 目次	17
・ジャパン・ソサエティ 東日本大震災復興基金 (ローズファンド)について	18
・セーブ・ザ・チルドレンxさなぶりファンド ことも☆はぐくみファンドについて	26
・サントリー・SCJフクシマスマスプロジェクト 福島子ども支援NPO助成について	34
・中小企業庁「創業補助金」について	42
・三菱重工みやぎ・ふくしまミニファンドについて	50
・善光寺出開帳 両国回向院復興支援基金について	52
・支援事業一覧	54
・決算報告	66
・団体概要／役員一覧	67



私たちは、「さなぶり」という言葉を組織名にしました。

「五穀豊穣という成功」を祈る、そうした想いから

私たちは、「さなぶり」が地域のつながりを育む宴であつたように、地域の担い手とその支え手、双方の皆さまとのつながりを大切に、震災後に生まれた東北の新たな「芽吹き」を支える組織を目指します。

私たちは、東北発のコミュニティ財団であり、資金をお預かりし、その資金に込められた願いを活かしてくださる方に、お預かりした資金を提供することが本分です。

事業の「種となる資金」をご提供し、

資金をお預かりし、その資金に込められた願いを活かしてくださる方に、

正味財産増減計算書 (税込)

(単位：円)

科 目	2011年度	2012年度	2013年度
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
寄付金・助成金等収入	36,639,769	215,727,374	315,202,051
その他収入	132,000	849,660	1,140,773
受取利息	144	1,396	1,318
経常収益計	36,771,913	216,578,430	316,344,142
(2) 経常費用			
支払助成金	26,164,000	180,174,000	258,338,000
事業費・管理費	9,025,260	33,661,170	59,440,623
人件費	4,012,985	16,257,957	35,151,274
旅費交通費	897,450	3,972,387	6,783,502
諸謝金	0	1,742,000	5,420,000
消耗什器備品費	1,658,405	1,119,856	2,151,898
通信運搬費	319,334	955,314	1,848,579
賃借料	770,013	2,397,563	2,928,906
事務所維持費	85,904	446,023	473,533
その他経費	1,281,169	6,770,070	4,682,931
経常費用計	35,189,260	213,835,170	317,778,623
当期経常増減額	1,582,653	2,743,260	(1,434,481)
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	1,582,653	2,743,260	(1,434,481)
法人税、住民税及び事業税	0	0	561,400
当期一般正味財産増減額	1,582,653	2,743,260	(1,995,881)
一般正味財産期首残高	0	1,582,653	4,325,913
一般正味財産期末残高	1,582,653	4,325,913	2,330,032
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	3,000,000	3,000,000	3,000,000
指定正味財産期末残高	3,000,000	3,000,000	3,000,000
III 正味財産期末残高	4,582,653	7,325,913	5,330,032

貸借対照表

(単位：円)

科 目	2011年度	2012年度	2013年度
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	13,192,547	163,611,180	210,452,854
未収金	15,619,800	318,560	26,061,860
その他	225,355	219,329	446,295
流動資産合計	29,037,702	164,149,069	236,961,009
2. 固定資産			
什器備品・敷金	726,419	429,473	382,387
その他固定資産合計	726,419	429,473	382,387
固定資産合計	726,419	429,473	382,387
資産合計	29,764,121	164,578,542	237,343,396
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払助成金	17,694,000	121,206,000	182,720,000
未払金	7,229,869	1,723,987	7,386,614
前受金	0	34,115,579	35,608,946
預り金	257,599	207,063	6,297,804
流動負債合計	25,181,468	157,252,629	232,013,364
負債合計	25,181,468	157,252,629	232,013,364
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	3,000,000	3,000,000	3,000,000
2. 一般正味財産	1,582,653	4,325,913	2,330,032
正味財産合計	4,582,653	7,325,913	5,330,032
負債及び正味財産合計	29,764,121	164,578,542	237,343,396

※1 基本財産は3,000,000円。

※2 現金預金210,452,854円のうち182,720,000円は、2013年12月に助成決定された団体に対して、2014年1月に助成金として支払われています。

地域創造基金

さなぶりのあゆみ

皆さまに育てていただいた苗が豊かに実りました



2011 : 2012 : 2013 : 2014

2011 ジャパン・ソサエティ 東日本大震災復興基金(ローズファンド)
 拠出者: 英国 ジャパン・ソサエティ 岩手・宮城・福島県(一部山形県)における復興支援活動に助成



2012 こども☆はぐくみファンド 拠出者: 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン共同出資
 岩手、宮城、福島県における子どもや妊産婦への支援活動に助成



2013 サントリー・SCJ フクシマ ススム プロジェクト 福島子ども支援NPO助成
 拠出者: サントリーホールディングス株式会社・公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 福島県と県外避難者が居住する地域での子ども支援活動に助成



2014 三菱重工 みやぎ・ふくしまミニファンド
 拠出者: 三菱重工業株式会社
 仮設住宅でのつながりづくりや、しごとづくりの活動に助成



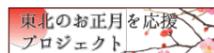
2014 志津川タコ復興プロジェクト 宮城県南三陸町志津川地区のタコ漁を支援



2014 中小企業庁「創業補助金」 岩手、宮城、福島県事務局を受託。創業や第二創業等を支援



2014 東北のお正月を応援プロジェクト 年末年始のイベントなど、仮設住宅での交流を支援

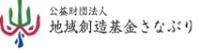


2014 あづめっちゃ 地域の課題を発信し、課題に取り組む団体と寄付募集

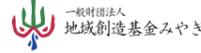


2014 善光寺出開帳両国回向院 復幸支縁基金 拠出者: 善光寺出開帳両国回向院実行委員会 心のケアなどの活動へ助成

2014.7.1 公益財団法人 地域創造基金さなぶりへ移行



2011.6.20 一般財団法人 地域創造基金みやぎ設立登記



志津川タコ復興プロジェクト



東北のお正月を応援プロジェクト



あづめっちゃ

公益財団法人 地域創造基金さなぶり
理事長 大滝 精一

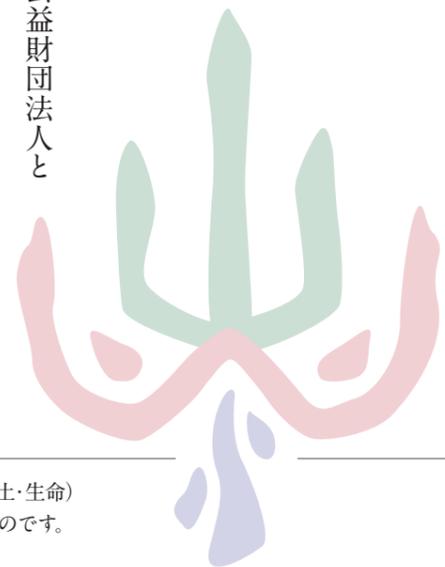


東日本大震災発生直後の2011年6月20日に弊財団は設立され、2014年7月には公益財団法人として新たな一歩を踏み出しました。東北のコミュニティ財団としてさらに活動を進化させ、地域に貢献したい。東北に特化した財団が存在する価値と活用策を多様な皆さまと検討していくため、この報告書兼提案書を作りました。

多大な時間と労力を要する被災地の復興。今はまだその端緒に着いたばかりです。弊財団は、東北を支えたいという想いをもつ方のパートナーとなり、同時に、営利・非営利に関わらず、地域を支える行動を起こしている方の資源として、魅力的な東北の地域を創造していく基金になりたいと考えております。

2016年春に丸5年を迎える東北は、これからが正念場です。これまでのご支援に改めて御礼を申し上げますとともに、引き続きご関心・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

設立より3年半、感謝の気持ちを込めて



ロゴマークの由来 緑:山(東北の自然・田園)、赤:火(人々の叡智・情熱)、青:水(東北の風土・生命)が一体となり、未来へ向かって上昇していきたいという願いを図案化したものです。

東北とともに、 これまででもこれからも



専務理事／事務局長
鈴木 祐司

はじめに

2015年1月20日、地域創造基金さなぶりは全国の皆さまのご支援により3年半を迎えました。この間、目指してきたことは「東北の現場で使える資源を増やすこと」でした。「資源」とは、資金であり、知見であり、交流であり、場づくりでした。この冊子を通して、その足跡と、次なる展開の一端をご覧ください。できればと考えております。

お伝えしたいことは多々ありますが、ここでは3つに焦点を絞りたいと思います。

1. 大規模災害後の地域の構造的な課題
2. コミュニティ財団の役割
3. 今後10年を見据えて

1. 大規模災害後の地域の構造的な課題

「職員14年度480人不足被災3県の50市町村」
(河北新報2014年3月22日)

「13年度の復興予算、35%が未執行 資材高騰や

起させることでしよう。馴染みがない方も少なくないでしょうし、やや硬直的というような印象をお持ちの方もあるでしょう。しかし、財団にも多様な種類があり、それぞれの設立者と運営体制によって異なるもので、弊財団はコミュニティ財団という区分にあたりません。コミュニティ財団は、その多くが弊財団のように特定の者に偏らずに多くの市民によって設立され、地域を特定し、その地域の諸課題の改善や活性化を目的にしています。その機能は、地域で使える財源を増やすことが目的であり、民間からのみならず行政の

人手不足などで

「被災地の工事、入札不調が3割 復興予算執行遅れの主因に」
(日本経済新聞2014年8月1日)

いずれも経済紙や地元紙の見出しですが、併せて左頁にあります「災害公営住宅の整備状況」の数値を一緒にご覧ください。

復興の進捗というのは、なかなか何をもって復興とするのか難しくはありますが、一つテーマを選ぶとすれば「住居」です。2年間の居住を前提に建てられたものが多い仮設住宅において、現在も入居している人数に対して、災害公営住宅は工事中および竣工の戸数を合わせても6割弱という状況が見えてくるかと思えます(入居戸数に対して計画戸数が少ないのは、意向調査や転居などを踏まえた調整の結果)。

また、構造的な要素も見えてきます。多くの地域の復興の要になっている地方自治体職員の必要人数を満たしていない状況があると言われています。国として地方に割り当てる予算も、各基礎自治体において計画を立案し、議会に通すなどの事務が必要で、高度な専門性や経験が必要とされる業務に、人数が少ない状態に加え、大型の建築需要の影響も含

政策目標を達成するための資金の配分やアフターフォローなどの事業を行うこともその役割の一つです。事業家や企業・行政など、一定の意図と資金を持った側と、一方で、地域と住民を大切に想い、多種多様な事業を行う非営利組織が、直接つながることが単純明快という部分もあります。そうした中でコミュニティ財団は、意図にあった案件・組織を探し、信頼に足る代表者・組織なのかを審査し、お金を出すだけではない支援を行い、資金を投下した成果を評価する、そこに外部資源としての活用余地があると考えます。

2014年11月末時点 / 各県の発表を独自に集計

災害公営住宅の整備状況

	計画戸数	工事中		竣工		仮設住宅入居者数	
岩手県	5,946戸	2,318戸	39.0%	913戸	15.4%	22,912人	10,531戸
宮城県	15,526戸	8,261戸	53.2%	2,141戸	13.8%	37,062人	16,729戸
福島県	7,592戸	2,121戸	27.9%	989戸	13.0%	24,818人	12,540戸
合計	29,064戸	12,700戸	43.7%	4,043戸	13.9%	84,792人	39,800戸

また、企業などで支援施策を検討する際、しばしば「現時点」で基準を上回っている組織はどこか? という視点がありますが、我々現場に近いところに拠をおく立場では、その事業・組織の意義と発展可能性を見極め、「成長余地」という時間軸を含めて評価するなど、指標が異なるケースがあります。そこで弊財団では、支援先の活動成果を高め、事業の成功可能性を高める支援事業も同時に行ってきました。集合研修、個別テーマに関わる個別コンサルティング、そして現場の団体同士を集めた経験の共有と次の展開の検討を図る研修の実施を通じて、地域の担い手の

む工事の入札不調などがあれば、復興予算の未執行という状況にもつながります。行政機能が時間の経過とともに震災以前と同様の規模を有しているのではないかと? という質問を頂くことがあります。行政の方は昼夜を問わず地域の復興に向けた業務を真摯にされています。しかし、町村合併によって所管する地域は増えるも、必ずしも人員が増えないなかで災害対応の事務量の増加が負担になっている状況が浮かび上がってきます。そこで、しばらくは民間の支援事業と公的な支援事業の特色を生かした役割分担をし、力を合わせての取り組み、そして民間の資金、あるいは特定目的の行政拠出の資金によって地域を支えていくことが必要な状況であると考えています。行政の予算を外に出し、地域を限定して、特定目的のみに(複数年)活用する基金の創設と運用に関して、コミュニティ財団たる公益財団法人が十分にその任を果たしうると考えています。

2. コミュニティ財団の役割

財団という響きは、聞き手によって様々な印象を想像を増やし、同時に経営力を高めることを目指しました。

もう一つ大事な取り組みは、場づくりです。沖縄や岡山のコミュニティ財団が、地域の課題を解決・改善するための円卓会議と称して取り組んでいる場を模して「寄りあいNIPPON」東北から日本の未来を創造する円卓会議」を実施しました。行政やNPOなどから参加を得て、立場を越えて相互の共通テーマについて意見を重ねていこうとするもので、試行的に広域版と地域特定版と双方を実施しました。資金を投じるだけで地域の担い手同士がつながり、課題が改善に向けて動き出すことは少なく、場をつくり、人々に参加を呼びかけ、願いや意見を交わしていく場はとても貴重なものです。願わくは、その多様な担い手が集まる場が出された試行的取り組みへ資金が投じられる状況を目指し、まずは地域での集まりの可能性を探りましたが、可能性と重要性が十分にあり領域であると確認できました。

3. 今後10年を見据えて

地域の担い手が学びあう場、地域の状況変化に柔軟に対処できる事業資金が必須、とは神戸で長年復興の現場に携わってきた方のお話でした。2015年1月17日は、阪神・淡路大震災から21年目の節目の日でしたが、その準備も含め、「公益財団法人阪神・淡路大震災復興基金」は2014年に、約15億円の助成金を予算化していました。東日本大震災の復興に関する資金の財源として、税金や寄付、並び



仮設住宅は長期間使用することを想定されていないため、雨漏りやカビ、すきま風など老朽化が問題となっている。

に助成金などがありました。寄付金額の低下があり、助成機関からの助成金についても終盤を迎えると推察されます（現在調査中）。

地域で次の5年を支えられる財源、年間を通じ、複数年での事業ができる財源、人と組織を育てる資金などが重要になります。これは非営利領域でも、新規創業・起業領域でも共通のもので、更に、これまで基盤を築きつつある組織がその力を発揮するための追加的支援も必須になるでしょう。復興の踊り場とでもいうこの時期、そして地域が着実に目に見える変化を生む前のこの時期をどう力強く着実に進めるかが問われているように思います。

おわりに

財団の本分は資金提供です。基本財産の造成（現在は300万円）や、地域に資金を配分する原資の獲得に努めることはもちろんですが、それ以上にこの地域にコミュニティ財団がある価値、単に資金をよりよく助成する以上の意義を具体化していくことが重要であると考えます。具体的には、資金調達に関する専任の配置と多様なプログラムの提案などをしていく他、地域の状況を発信していく機能を高め、弊財団も参加している「一般社団法人 全国コミュニティ財団協会」とも連携を図り、日本におけるコミュニティ財団の価値や役割を追求し、地域に具体的な変化を創れる機能を担うべく尽力します。資金は実行力であり、よりよい明日を創出する源であり、新しい創意工夫を呼び覚ます強さで



助成団体同士の学びあいフォーラムの様子。震災後の活動を振り返り、地域の復興とまちづくりに必要なことを、団体相互で確認した。

す。これまでの3年半の取り組みは序章であり、多様な皆さんにその可能性を感じて頂くものに過ぎません。

10年後も、20年後も、あの時に震災があったけれども、それにも負けず東北が魅力的なまちでありつづけ、人々を魅了する暮らしを取り戻したと胸を張って言えるように、一歩一歩、地域の皆さまとともに踏みしめていきたいと考えています。

「地域に変化を起こそうとする人と組織の飛翔を支えるバネ（源）」になるコミュニティ財団となるために、更なる皆さまのご関心とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域創造基金さなぶりは、設立時から3年間・総額1,000万円の組織基盤強化事業として、以下の基金から助成をうけました。コミュニティ財団が生まれた米国からのご支援は、弊財団のビジョン、地域に存在する価値と可能性を評価頂いた結果だと考えています。このご支援をうけることで、広報機能の強化と資金調達の強化がはかられ、研修等の投資的な取組みに充当することができました。心より御礼申し上げます。

公益財団法人 日本国際交流センター (JCIE) / 米国法人 日本国際交流センター
東日本大震災 NGO 支援国際基金



コミュニティ財団とは

コミュニティ財団は1914年に米国から始まり、現在米国内に700以上、世界で1,700以上の財団があると言われています。米国では、資産規模が数十億~数百億円のコミュニティ財団も珍しくなく、1千億円を超えるものもあります。

コミュニティ財団は地理的な「コミュニティ=地域」を特定し、複雑に絡み合う地域の諸課題を、包括的な視野を持ち解決しようとするものです。また、課題解決に取り組む事業へ、資金を始めとする資源の仲介・提供を行います。多様な背景をもつ住民の暮らしの質を高めるために貢献する組織、とも言えます。

事業内容としては、寄付などの仲介を行います。個人や法人などが設立する基金の他、テーマを特定して寄付を集める基金などを設置・運用し、資金提供者の意向を生かした資金を提供します。また、地域の課題解決に取り組む組織の基盤強化を行うケースもあります。事業計画の策定、会計処理、ボランティア・マネジメント、チームビルディングの支援などです。

さらに、課題に取り組む人々が集まる場づくりを事業として行う場合もあります。課題の共有や解決に向けた具体策の検討などを行い、その解決策に資金的支援を組み合わせようとする動きもあります。

一般社団法人 全国コミュニティ財団協会 www.CF-JAPAN.org

2014年6月に、弊財団の評議員でもある公益財団法人 京都地域創造基金の深尾昌峰理事長の呼びかけにより、全国10の組織を会員として設立。各地のコミュニティ財団や地域ファンドとの連携を図りながら、研修の実施やセクターとしてのアカウンタビリティの向上などにかかるガイドラインの検討などを通じて、日本におけるコミュニティ財団の地位向上を図るべく活動をしています。

地域創造基金さなぶりは、副会長職に専務理事の鈴木を派遣し、セクターとしての進展並びに、東北地域の地域ファンドの連携に取り組めます。

地域創造基金さなぶり 2011年6月~2014年12月末 までの実績

- 総額約18億円の資金調達、累計約16億円の支援実績
- 新規創業者向け支援として、岩手県、宮城県、福島県、361事業者へ資金を提供
- 非営利・復興支援事業へ、岩手県、宮城県、福島県+福島からの県外避難者受入地域にて、319件へ資金を提供
- 支援先組織への運営技術支援の実施(20団体以上)
- 行政と企業、民間の組織とをつなぐマルチステークホルダー会議の開催



「寄りあいNIPPON」では、セクターを越えて東北の復興に取り組む人が集まり、東北の復興を加速するために必要な連携などを議論した。

NPOの活動意義を客観的に整理して、社会に発信していきたい

— 仙台にはリターンですよね。さなぶりで働くことになったきっかけは？

元々、2011年3月末まで勤めていた金融機関を退職し、横浜から仙台に戻る予定でした。震災後しばらくは家の片づけや手伝いで忙しかつたのですが、落ち着いてくると、仙台にいるのに震災復興に関わらないことに違和感を覚え始めました。そして以前から社会的なお金の流れ、いわゆるNPOバンクやNPOの資金調達に興味があったので、さなぶりが設立された2カ月後の2011年8月に入職しました。

— 現在はプログラムオフィサー（助成事業担当）として、団体の方と接していますが、最初はとても苦労したとか

前職もお金を扱う仕事をしていたとはいえ業務内容は全く異なるものだったので、最初の頃は団体を訪問した後、上司から「どう思った？」と感想を聞かれても、何も言えませんでした。回数を重ね、ようやく

く団体が直面している課題や状況などが分かってきたというのはありますね。

— 団体が直面していることって、例えばどんなことですか。これまでの約3年間で変化はありますか？

特に、震災後に設立された団体は、これまで目の前の課題に向き合うことに精一杯で、体制を整える余裕がなかったと思うんですよね。「私は大丈夫！ 24時間365日働きます」と言う方もいたんですが、「もしあなたが突然の病気や事故にあったらどうするんですか」と聞くと「あ、そうですね」と(笑)。活動を通じて支えている地域の方々の為にも、少し先を見越して、活動を続けていけるように考えてもらうことも必要なのでは、と感じることもありました。でも最近はその必要性を団体の方自身も感じていて、中長期的なビジョンや資金調達計画づくりをしたい、法人化を目指して事務局体制を整えたいというような相談が増えてきました。



江川 沙織

2011年8月入職。主に子どもや母親支援を対象にした助成事業を担当。助成事業の募集に関わる業務や、企画、団体へのフォローなどを行う。宮城県生まれ。

しかし一方で、震災から時間が経って支援団体への寄付金や使える助成金が減っているという現状もあります。事業の対象は被災により生活再建の途中という方々であることも多いので、参加費などを募ることも難しい。対象者のニーズに応じた支援活動が必ずしも事業化出来るとは限らない、というようなケースも多いですね。

— NPOが地域に果たす役割は、どんな部分であると感じていますか？

支援が必要な人に対して、現状の制度や支援策ではカバーされていないところを見つけ、きめ細やかにサポートし課題を発信することでしようか。課題に向き合い、支援が必要な人に寄り添うNPOにしかできないことだと思っています。そして私たちは、NPOの活動意義や地域の状況や課題を、通訳のような役割として東北からの目線で発信していければと思います。それが東北にあるコミュニティ財団としてできることだと考えています。

人と人のつながりを支援できることは、民間財団の強み

— なぜさなぶりで働くことに？

私は宮城県大崎市出身で、高校卒業まで宮城県に住んでいました。近所の結びつきが強い地域で、地域の清掃や手伝いなどを行う家族の姿を見て育ちました。震災前は東京で仕事をしていて地元で仕事をするとは考えていなかったのですが、震災後、仕事で被災地に行つて避難所で暮らす人と話した時に、だんだん他人ごととは思えなくなってきたんです。私の父は頑固もの。もしその父が家や仕事を失い、一人で仮設住宅に住まなければいけなくなったらどう考えたら……。東京へ帰る新幹線の中で「宮城に帰る！」と決めて、震災から4カ月後の2011年7月11日から宮城で仕事を始めました。

— 東北に帰ってきて3年以上たちますが、感じている地域の状況はありますか？

コミュニティがバラバラになっていると感じています。例えば仮設住宅でイベントを

しても、参加者の多くは高齢の方。なぜかと言うと沿岸部は津波の影響もあって、若い世代は仕事のある都市部へ移住する人が多いんです。それまで一緒に住んでいた息子夫婦や家族と離れて暮らすことになり、ご近所さんとも別の仮設になってしまい孤立するという状況が目立ちますね。

— 解散した自治会もありますね

はい。気仙沼市のある自治会のお別れ会を支援したこともありまして。居住制限地域に指定されてすでに自治会も解散していましたが、「区切りをつけたい」と。

住民が散り散りに避難している中、地元新聞などで呼びかけ200名が参加しました。震災後約2年ぶりの再会の方も。顔を見た瞬間に抱き合い、「元気だったの？」「どこに住んでいるの？」と。お別れ会では歌や踊りをそれぞれ披露して、最後に全員で「故郷」を歌ったんですが、皆さんの笑顔と泣き顔を見て、私も涙が止まりませんでした。でも、参加していた方から「これから



川村 文

2011年7月入職。助成事業と総務・経理を兼務。助成事業の企画や募集に関わる業務などを行う。宮城県生まれ。

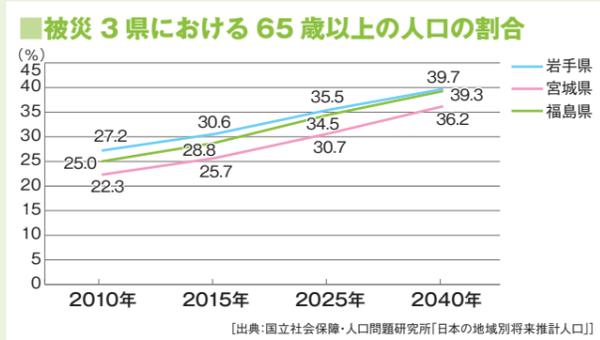
の生活の励みになりました」と言われた時に、心と心をつなぐってこういうことなんだと実感しました。

— 道路や建物をつくるだけでなく、こうした支援も必要とされているのですか

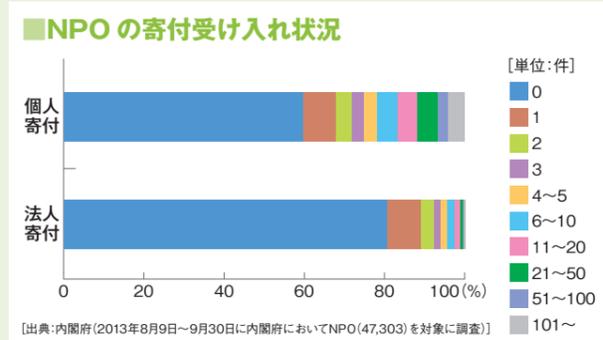
人のつながりを支援できるのは、さなぶりのような民間の財団の強みです。地域の方々の絆を深めるような支援の形は、まだまだあると感じています。

— 次のニーズはどこにあると思いますか

住み慣れた土地から仮設に移り、これからは公営住宅へ移る時期。何度も一からコミュニティをつくらなければならないのは大変です。だからこそ、人をつなぐ場の支援がますます必要になると思います。被災した方たちが踏み出す前向きな歩みに寄り添い、背中を押せるような立場でいたいですね。そのために、仕掛けや企画づくりに取り組んでいきたいです。



現地を訪問し感じた被災地の課題や状況などを発表する機会も。東北内外での発信に積極的に取り組んでいる。



「直接話を聞いて初めて分かることもある」と、現地へ足を運び、活動を見学したり相談にのったりすることも。

地域の人の笑顔のため、 本当に必要な人に お金を届けたい

「地域の金融」を仕事にされていますが、
日々興味があったのですか？

いいえ。実は大学時代、学部の中で有名なゼミを腕試しで受けたのですが、それがたまたま金融のゼミで、そこが始まりです。私は福島県出身ですが、首都圏出身の友人が多くて、地元よさを再認識することになり、「地域の金融」が勉強のテーマになりました。

最初の仕事は福島の金融機関でしたよね

地域の金融ということで、自然の流れで元の金融機関に入社しましたが、震災後に国から復興資金が下りて来て、借り手を探すのが仕事になってきました。そんな折、あるおばあちゃんが「失業した息子のために10万円届けたいが借りられないか」と来店。稟議を通すのに苦労しましたが、融資が実現しておばあちゃんが喜んでくれたのを見て思いました。本当に必要な人にお金を届けているか、地域の人の笑顔のために働きたい

と。さなぶりの募集を知り、思いを実現するチャンスだと思い応募しました。

さなぶりでは創業補助金の仕事で奔走していますね

はい。どっぷり浸かっています。起業を増やすことは地域経済の活性化、日本が元気になることだと思っています。

創業補助金には、さなぶりが事務局を務める岩手・宮城・福島の3県で、計約700件の応募がありました。提出された事業計画書はすべて目を通し、半分くらいの応募者とはお会いしました。起業される方は皆その事業に自分の想いをこめていてるので、追い圧倒されることもしばしばです。

起業する方と会う時に、気を付けていることはありますか？

基本的に私は聞き役に徹しています。自らのリスクで創業しようという方達なので、敬意の念を持って接しています。



樽川 裕紀

2012年10月入職。ソーシャルフィナンス担当。創業補助金事業の担当者として、応募者の募集、採択、事業開始、中間フォロー、最終報告、補助金交付の各プロセスに関与する。福島県生まれ。

実際に事業を始めると、予想よりお金がかかる、予想通りにはお客さんが集まらない、また震災後の復興工事の影響もあり、工事業業者が見つからない、従業員を集めるのが難しいといった、いろいろな問題が出てきます。悩みながらも努力されている姿をみると、私としては心の中ではすべて応援したくなります。また、起業してうまくいかないケースもあり、「事務局としてもつやれるのでは」と悩むこともあります。

例えば？

補助金以外にも起業を支援する方法はあると思っています。一人で抱え込んでしまいう人には、先輩経営者と起業する方をつなぐ場を提供するとか。専門家にアドバイスをもらえるような機会を作ったり。

さなぶりには助成金事業もあり、支援先の立場に立つて考える風土が育まれています。創業補助金の事業でも、起業する方の目線を大事にして、起業する方が望むような支援の形を模索したいと考えています。

被災地に暮らす人、 応援する人、全てが まちをつくる大切な要素

出身は神奈川県ですよ。なぜ東北に来るようになったんですか？

震災直後は「大変だ」と思っていたものの、何もできずにいました。その後海外を旅行した際、「日本は大丈夫か」と行く先々で心配されて、「日本人として何かしなければ」という気持ちが高まり、2012年の2月に、思い切つて仙台に来ました。

最初は3カ月で帰るつもりだったとか

3カ月もいれば、自分のしたことでも何かが変わるだろうと思っていたんです。でも、何もできなかった。焦りを感じる日々でした。

そんな時期、取材で沿岸部へ。「震災から1年経つて、前進していることはありませんか」と質問したら、「今はゼロの状態。何もなし、ここから二歩ずつしか進めない」という答えが返ってきて。前向きで明るい言葉を想定していた私にとって、衝撃でした。その晩、仙台に帰り一人居酒屋で、ピスタ



志賀 恭子

2012年2月入職。広報担当。チラシや報告書の制作、ウェブサイトの運営など情報発信を担う。神奈川県生まれ。

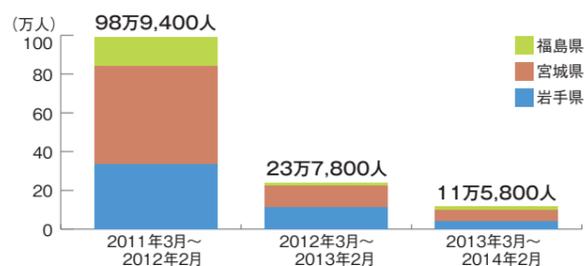
メッセージは現地の方に直接届けに？

はい。皆さんメッセージを食い入るように見て「こんなにくさんの人が想ってくれるなんて、本当にうれしい」と笑顔を見せてくれました。実際に足を運ばなくても、そこに住んでいる人たちが元気にできる、支援にはいろんな形があると気が付いた瞬間でもありました。

東北外からでもできることがあるんですね

被災地に暮らす人、その人たちを支援する人、さらにまわりで応援する人、全てがまちをつくっていく大切な要素だと、改めて実感しています。だから、もっとたくさんの人に東北のことに関心を持ってもらい、一緒に東北の未来を見届けてほしいです。そのため私ができるのは、情報発信を強化すること。神奈川と東北、二つの暮らしを経験しているイタリーの強みを生かして、想いをつなぐ架け橋になれたらと思います。

ボランティア活動者数の推移



【出典：(社)全国社会福祉協議会 被災地支援・災害ボランティア情報】



財団からの発信が、東北外・被災地からどう見えるかなど、様々な視点を持ちながら慎重に取り組む。

起業家が今後活用したい支援策

順位	項目
1	低金利融資制度や税制面の優遇措置 (6.6%)
2	公的機関(中小企業基盤整備機構、自治体の窓口等)への相談 (5.4%)
3	起業・経営に関する講座やセミナー (5.3%)
4	インターネット等による起業・経営に関する情報提供 (4.3%)
5	起業を共に行う仲間と出会う場所の提供 (4.0%)

【出典：中小企業庁委託「日本の起業環境及び潜在的起業家に関する調査」(2013年12月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))】

※上記資料のうち、上位5項目



「起業する方たちの想いを聞いていると、自分も精一杯やらなければと気合いが入る」と仕事にも熱が入る。

育んでくれた地域への恩返し、一緒に始めませんか？

東北を元気にする事業だけを行う公益財団法人です。

ご提案

個人の方へ

東北に願いのこもった「志金」を

ふるさと納税のような通常の寄付の他、公益財団法人という社会的に信頼された組織だからこそ、生前贈与や遺贈という形で、東北に意志を残すお手伝いをさせていただきます。

事業者の方へ

利益の一部を地域の活性化へ

地域創造基金さなぶりは、公益財団法人として法的に認定された組織です。弊財団へ寄付金として支出したものについて、課税対象にならない範囲が拡大されます(寄付金が損金算入される「寄付金控除」の枠が拡大)。東北を元気にする事業だけを行う弊財団へ、利益の一部を活用した寄付をご検討ください。ご関心にあわせて、規模や地域、テーマも選べます。

周年行事や特定目的の冠基金

顧客や地域に感謝を伝える手段として、基金をつくることができます。企業の願いを表し、ブランド化していく新しい形です。支援事業につける名称(=冠)のデザインを始め、様々な媒体で取り上げられるためのノウハウがあります。

地域とともにある企業としての願いを表現

商品に1円や5円の寄付をつけ、期間限定の寄付つき商品として社会貢献できます。いつもの買い物で、地域の役に立てる・地域とつながる機会づくりをプロデュースしませんか？POPの作成からお手伝いします。

金額ではなく、その「志金」に込める気持ちを大切にしたい。

地域創造基金 さなぶりの取り組み

東北初のコミュニティ財団として、東北や、復興支援事業をお考えの個人・企業・行政の方々へ以下の事業に取り組んでいます。

国内外の企業・行政・個人・団体の、想いの資金をつなぎます

資金・寄付の仲介

東北や復興現場の情報を発信

地域の状況が分かりやすいように「見える化」を進めています

資金の提供

非営利組織、社会起業家、一般起業家など、変化を生み出すための資金を提供します

地域の課題や現状を共有、議論をして、必要な取り組みや役割分担を考える場を設けます

地域事業

組織・事業経営のための基礎的なことから、経営戦略までともに考えます

経営ノウハウなどの提供

地域創造基金さなぶりへの寄付は、税制優遇が受けられます

通常、寄付は一定の限度額内で損金の額に算入できます。当財団への寄付は、上記に加えて別に設定された一定の限度額内で損金の額に算入できます。

- (A) 一般損金算入限度額 = (資本金等の額×0.25%+所得金額×2.5%)×1/4 (A)(B)の合計金額の損金算入が認められます。
- (B) 別枠の損金算入限度額 = (資本金等の額×0.375%+所得金額×6.25%)×1/2

(寄付金控除のメリット)

例 年中の所得金額が1,000万円で、寄付金額30万円の場合 (法人税率=40%と仮定)

寄付金控除がない場合	寄付金控除がある場合
売上高 100,000千円	売上高 100,000千円
原価・経費 90,300	原価・経費 90,300
税引前利益 9,700	税引前利益 9,700
法人税 4,000	法人税 3,880
税引後利益 5,700	税引後利益 5,820

30万円の寄付で12万円のメリット

確定申告により所得税が還付されます。「税額控除方式」または「所得控除方式」のいずれかを選択できます。

- (A) 税額控除方式
寄付金のうち、2,000円を超える額の40%が所得に対する税額から控除。*ただし、所得に対する税額の25%が限度。
- (B) 所得控除方式
寄付金のうち、2,000円を超える額が総所得金額から控除。*ただし、総所得金額の40%が限度。

(寄付金控除のメリット)

例 所得税率10%の方が、年間100,000円を寄付した場合

税額控除方式	所得控除方式
(100,000-2,000)円×40%=39,200円 所得税が39,200円還付される	(100,000-20,000)円=80,000円 (総所得金額から控除される額) 80,000円×10%(所得税率)=8,000円 所得税が8,000円還付される

年間10万円の寄付で最大4万円弱の所得税還付

避難所でじっとしていたら
どんどん気が落ち込んできてしまって、
働く場所が必要だと改めて実感した
[宮城県南三陸町／宮城県漁業協同組合志津川支所／2012年]

女性同士の何気ない
雑談の中から落ちる
一言ひとことを集めることが、
ニーズ把握の近道
[宮城県登米市／(特活)ウィメンズアイ／2012年]

子どもの心の傷やストレス。ダンスや音楽を通じ、
元気を取り戻す手助けをしていきたい
[宮城県仙台市／ダンス幼稚園実行委員会／2013年]

震災直後は話すことができなかったが、
今だから聞いてほしいことがある
[宮城県亶理町／(特活)亶理いちごっこ／2012年]

被災状況もバラバラの中、一人ひとりの気持ちを、
すずめ踊りを通してつなぐことができなかつたか考えた
[宮城県仙台市／仙台・青葉まつり協賛会／2012年]

文化・芸術・
スポーツ
への支援

避難ママの気持ちに寄り添いたい
[山形県山形市／(特活)やまがた育児サークルランド／2013年]

地元のもの販売できる
仕組みをつくりたい
[岩手県北上市／(株)岩崎商事／2013年]

障がいの有無にかかわらず誰もが
生き生きと輝ける地域社会をつくっていききたい
[福島県郡山市／(特活)ふよう士2100／2013年]

生業・創業
への支援

子育てと仕事が両立できる
社会の実現を目指したい
[福島県福島市／(特活)まごころサービス福島センター／2012年]

暮らしやすさ
への支援

東北の 想いに 寄り添って

小さな声のSOSにこそ耳を澄ましたい
[福島県二本松市／(特活)子育て支援グループこころ／2012年]

子どもたちの意見は、復興計画に反映されているのだろうか？
[山形県山形市／(特活)子ども支援フェイスブックプロジェクト／2013年]

避難先での生活であっても、
地域の魅力を生かした支援を続けたい
[新潟県柏崎市／(特活)柏崎まちづくりネットあいさ／2013年]

子どもたちが困難を乗り越え、
健やかに成長することが一番の願い
[埼玉県加須市／(特活)しゃり／2013年]

福島の子どもであることに
誇りをもってほしい
[東京都千代田区／人の輪ネット／2014年]

支援の要は
「自立できる仕組みをつくること」
[福島県会津若松市／(特活)寺子屋方丈舎／2011年]

本当に必要とされるときに、
必要な支援を届けたい
[岩手県大船渡市／(特活)こそだてシップ／2012年]

子ども・
子育て
への支援

子どもが、
大人とまちを変えていく
[宮城県気仙沼市／(特活)底上げ／2013年]

困難を一緒に乗り越えてきた
仲間・地域との絆を大事にしていきたい
[福島県いわき市／サンバ&アートグループ OVO NOVO／2012年]

地域活性
まちづくり
への支援

※(主な事業地域／団体名／支援時期)

当財団で実施した支援先レポート
より抜粋しています。
全てのレポートはウェブで公開し
ています。
<http://www.sanaburifund.org>



支援先の活動のひとつ



支援先レポート 目次

善光寺出開帳両国回向院復幸支縁基金	52
三菱重工 みやぎふくしまミニファンド	50
中小企業庁「創業補助金」	42
地域住民の買い物を支え、新たなお金の流れをつくる	44
イタリアントマトの生産から始める、まちの活性化への挑戦	46
困難にも笑顔で起き上がる、復興の可愛いシンボル	48
福島から各地に避難した発達障がいの子どもを全力でサポート	38
避難中の子どもの心を癒し、地域の人とつながる遊び場づくり	40
サントリー・SCJフクシマススムプロジェクト 福島子どもNPO助成	34
なごめる民家で避難ママの子育てをサポート	36
福島から各地に避難した発達障がいの子どもを全力でサポート	38
避難中の子どもの心を癒し、地域の人とつながる遊び場づくり	40
気仙沼の高校生によるまちづくりをサポート	32
アートを活用した子どもの居場所づくり、仲間づくり	30
セーブザ・ザンデルレンXさなぶりファンド こども☆はぐくみファンド	26
助産師が「サロン」と「訪問」で母親を元気に	28
障がいを持ちながらも、地域住民と共に復興の担い手に	24
住民主体の復興会議運営をサポート	20
地域を絆を再び「すずめ踊り」でつなぐ	22
ジャパン・ソサエティ 東日本大震災復興基金(ローズファンド)	18

ジャパン・ソサエティ 東日本大震災復興基金 (ローズファン ド) について

事業概要

被災地から遠く離れた英国に暮らす方々の「私たちにも被災地のために何かできることはないか」という想いから、東日本大震災直後に英国のチャリティー団体ジャパン・ソサエティに設立された基金です。主に岩手県、宮城県、福島県の3県を対象に、非営利の団体が行う復興支援事業と団体の組織基盤強化に対して助成し、被災地のニーズに沿った復興支援活動とその担い手となる現地NPOの成長を支援しています。



事業を通して 見えてきたこと

復興のフェーズごとに求められる事業へ支援するため、期ごとに助成テーマを設けました。また、長期化する復興過程を支える組織の育成に寄与する目的から、第一期から継続して、組織の基盤強化を図る取り組みの申請を推奨、組織づくりに積極的に取り組む団体に助成を行ってきました。

2011年における仮設住宅での越冬支援など、フェーズごとに異なる支援ニーズに対する助成の必要性が実証された一方で、コミュニティ形成や見守りなど、フェーズに関係なく継続する支援ニーズを資金的に支え続けることの重要性を鑑み、2013年からは2か年の継続助成を取り入れました。民間の助成金の柔軟性をいかし、復興を担う新しい機能や施設の立ち上げにも支援、地域の復興の拠点となつています。NPOによる住民の合意形成のための場づくりや意見集約のサポートは、新しいまちづくりが本格化するにつれ、益々重要性を増しています。

応募状況

	第一期	第二期	第三期	第四期	第五期	合計
申請件数	30件	34件	42件	10件	55件	171件
申請金額	36,406万円	4,957万円	10,822万円	2,463万円	19,382万円	74,030万円
助成決定件数	8件	11件	10件	8件	7件	44件
助成決定金額	1,397万円	1,562万円	2,497万円	1,902万円	2,378万円	9,736万円

対象：2014年6月末迄。支援事業一覧はP.54～

県別助成実績

	第一期		第二期		第三期		第四期		第五期		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
岩手県	3件	500万円	0件	0円	4件	1,021万円	4件	913万円	3件	1,150万円	14件	3,584万円
宮城県	4件	747万円	5件	800万円	4件	981万円	2件	492万円	3件	850万円	18件	3,870万円
福島県	1件	150万円	3件	431万円	2件	495万円	2件	496万円	1件	378万円	9件	1,950万円
その他			3件	331万円							3件	331万円

※金額を万単位の概数としているため、合計が合わない場合がある。対象：2014年6月末迄



(社福) 山元町社会福祉協議会 山元町共同作業所(工房地球村) [ローズファン ド 第三期支援事業]

住民主体の復興会議運営をサポート



ち上げることができた。とても助かっている」と振り返ります。廣田先生とは、岩手大農学部教授で支援センター理事長の廣田純さん。第二回会議から廣田理事長と支援センター事務局長の若菜千穂さん、岩手大の学生たちが参加し、復興会議事務局と協力しながらワークショップを運営しています。回を重ねるごとに被災者や女性の参加者が増え、復興会議委員として22人のメンバーが月に二度の会議に臨んでいます。

ワークショップ形式で活発な意見交換を

ワークショップでは、参加者が3つのグループに分かれて、テーマについて意見を交わします。意見は付せんにとめて分類するなどして、最後にはグループごとに結果を発表します。これまでに、地域コミュニティを維持するための課題や堤防の高さなど具体的なテーマを議論してきました。高台移転の候補地についても、会議の結果としていくつかの案を行政に示すことができました。12年2月に行われた第六回会議では、行政からの返答を受けて、再度、候補地の適性や問題点について話し合いました。ワークショップのテーマ設定や資料作成を行う若菜事務局長は「私たちは、皆さんに自分たちでやるべきことに気付いてもらい、自分たちでできるようにお手伝いしているだけ。被災地にはいろんな問題があるけれど、集団移転が決まらなないと、住民も他の問題に取り組めない」と、一連のワークショップを通じて感じた被災地の現状を訴えます。そんな中で、高台移転や堤防の高さについては、行政から復興会議での意見集約を委託されており、行政からも期待される存在となっています。

地域全体で取り組む復興会議

遠藤自治会長は「復興会議メンバーの中には、被害がほとんど無かった人もいますが、復興には地域全体で取り組まなければならぬ

特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター

東日本大震災の津波被害で甚大な被害を受けた沿岸部では、浸水地のかさ上げとともに、高台や内陸などへの集団移転に向けて、行政や住民が議論を重ねています。集団移転を検討している地域の二つである、岩手県大船渡市三陸町の崎浜集落では、自治会が主体となつて地域の復興計画を策定しています。約200世帯、約600人が住んでいた崎浜集落では、約50世帯の住宅が全壊。住民の多くは、高台にある廃校となった小学校校庭の仮設住宅と、北里大学三陸キャンパスの学生向けにたくさんあったアパートへ入居しました。

崎浜復興会議の立ち上げ

地域で管理する林を持つ崎浜集落では、自治会の役割が大きく、2011年6月には自治会が中心となり、崎浜復興会議を立ち上げました。地域づくりに関して地域住民と行政をつなぐ中間支援でノウハウを持つNPO法人いわて地域づくり支援センターでは、ワークショップ形式を導入して復興会議の運営をサポートするなど、住民主体で合意形成を手伝っています。

「地元の住民だけでは、何をすれば良いのか分からなかった」と話すのは、復興会議メンバーで自治会長の遠藤喜隆さん。今回協力を仰いだいわて地域づくり支援センターとは、2007年から地域交流事業で支援を受けており、良好な関係を築いていました。遠藤自治会長は「もともと関係もあって『この人たちなら』と思った。会議には廣田先生も参加すると言ってくれたので、復興会議を立

と考えた」と、復興会議の重要性を説きます。自治会は古くから地域の合意形成をリードしてきましたが、自治会員のほとんどは高齢の男性。女性の意見に耳を傾ける機会ほとんどありませんでした。支援センターの助言もあり、復興会議には22人中8人の女性メンバーが名を連ねます。遠藤自治会長は、ワークショップ形式の会議運営について「二人ひとりの意見が形になるから、活発に意見が出るようになった」と、支援センターの参加効果を評価します。

支援センターの廣田理事長は「地域のことを知っている人たちが、地域の将来を考えるのは合理的なこと。まとまったコミュニティがあった地域での復興計画策定は、こういう風にあるべきだ」ときき取り。その上で「図面を書いたり、ワークショップをリードしたりと、技術的な支援は必要だ」（廣田理事長）と言います。若菜事務局長も「被災という特殊な状況下で、地域住民だけで議論するのはとても難しい。行政と地域の間に入って、中間支援することも大事。前向きで『ふるさとを何とかしたい』と考える方々と一緒に活動することで、お互いに良い影響を受けている」と語ります。

「復興会議にゴールはない」

高台移転の議論の進捗に合わせて、いわて地域づくり支援センターでは、復興会議メンバーと一緒に被災世帯の全戸訪問調査を行う方針です。3月末には、集団移転の先行事例を学ぶために、復興会議のメンバーで新潟県山古志村の復興住宅を視察しました。そして各地に散らばる崎浜集落出身者に、地元のことを知ってもらうためにも、震災と復興の記録集作成と発送も復興会議で行う予定です。「復興会議にゴールは無い」と語る遠藤自治会長と共に、いわて地域づくりセンターは「お手伝い」の立場から、被災者に寄り添った支援を継続します。

(2012年2月 取材)

概要	
設立年	1995年
代表者名	廣田 純一
事業名	大船渡市三陸町崎浜地区の自分たちでつくる復興計画の策定及び復興の実現による集落コミュニティの強化事業
事業地域	岩手県大船渡市
事業期間	2011年12月1日～2012年5月31日
助成金額	150万円



崎浜復興会議のメンバー。



女性ならではの視点も復興計画に反映。



活発な意見交換で付せんの数も増える。

地域の絆を再び

「すずめ踊り」でつなぐ



仙台・青葉まつり協賛会

東日本大震災の地震や津波による影響で家を失い、仮設住宅などで新しく生活を始めた住民たちは、一からのコミュニティづくりを余儀なくされました。地域のつながりを大切にする東北地域では、住み慣れた場所や人間関係から離れ暮らすことに大きなストレスを感じる人が少なくありません。

「仙台・青葉まつり協賛会」は、新しい関係づくりをサポートしようと、仮設住宅団地での踊りと音楽を通した新しい交流の場づくりを始めました。宮城県仙台市を中心に親しまれている「すずめ踊り」の練習会を仮設住宅団地の集会所などで実施。子どもから大人まで性別や年代を問わず参加できるすずめ踊りは、新しい絆を生み出しました。

「ばらばらになった気持ちを つなげるきっかけに

すずめ踊りは「祭連」と呼ばれるグループに分かれ、かねや太鼓のおはやしに合わせて踊ります。小学校や地域の子ども会単位で練習したり、職場で祭連を結成したりと、仙台市内を中心に県内に約130組の祭連があるとされ、市民の間に広く浸透しています。

身近なすずめ踊りを通して、東日本大震災で被災した人々を元気づけることはできないかと立ち上がったのは、「仙台・青葉まつり協賛会」。事務局長の鹿野正利さんは「仮設住宅では、色々な地域から様々な人が集まって生活している。被災状況もバラバラの中、一人ひとりの気持ちを、すずめ踊りを通してつなぐことができな



事務局長の鹿野さん。「事業を通して、メンバーの皆さんの表情が明るくなり、積極性が増したように思う」と変化を語る。



介護老人福祉施設での慰問活動。支援される立場から、人に元気を与えられると実感し、自信や生きる力につながった。

かと考えた」と、当時の様子を振り返ります。

2012年3月より、いくつかの仮設住宅団地や地域に声をかけ始めました。主旨に賛同した、仙台市若林区荒浜で被災した住民が多く入居している若林区卸町にある仮設住宅団地と、仙台市宮城野区南蒲生の2カ所で練習会を開催することに。

南蒲生は津波被害を受けた地域で、住民は近隣にできた仮設住宅に入居したり、自主的に自宅を再建して住んだりバラバラの生活を送っていました。祭連を結成し再び関係づくりを始めました。「練習会には、赤ちゃんを抱っこしながら踊るお母さん、高齢のおばあちゃん、小学生など様々な人が楽しく参加し、年代や性別を超えたつながりができた」と鹿野さん。こうして二つの祭連が結成されました。

励まされる側から励ます側に

練習を続ける中、卸町5丁目公園仮設の祭連の活動の様子を知った仙台市内の介護老人福祉施設から、「皆さんが元気に踊る姿を、私たちの施設でぜひ披露してほしい」との依頼が。結成したばかりでうまく踊れないとの不安もありましたが、「少しでも力になれば」と出向きました。130人ほどの前で一生懸命踊ると、大きな拍手が沸き起こりました。

「それまで支援される側だった彼らが、『自分たちでも誰かを元気づけることができる』と新たな発見と喜びを感じる事ができた」（鹿野さん）。この経験が一人ひとりの自信につながり、自ら進んで発表の機会を企画するなど、祭連のメンバーたちに大きな変化をもたらしました。

名前と法被・扇子がそろい、一体感へ

練習と併せて「仙台・青葉まつり協賛会」が進めていたのは、すず

め踊りに欠かせないお揃いの法被と扇子の制作。各祭連と話し合いながら10種類以上のデザインを「仙台青葉まつり協賛会」が提案。南蒲生のメンバーが選んだのは、波の絵柄が入った法被でした。鹿野さんは「津波を連想させる絵柄を入れることに驚いたが、メンバーからの『津波に負けないぞ』という気持ちを表わしたいという希望だった」と話します。法被には、併せて考えてきた祭連の名前もデザイン。卸町5丁目仮設住宅団地の祭連は「絆舞、卸町雀祭連」、南蒲生の祭連は「南蒲生雀乃舞」に決まりました。

お揃いの法被と扇子を身に着け、練習会を継続。「踊る自信がない」と最初は見学だけだった人も、楽しそうに踊るのを見るうちに、「私にもできるかも」と参加する人が徐々に増え、現在「絆舞卸町雀祭連」は約20人、「南蒲生雀乃舞」は約40人に。年末には二つの祭連合同で忘年会も開かれるなど、地域を越えたつながりも生まれました。

多くの共感を呼んだ大舞台への挑戦

2013年5月にはこれら二つの祭連が「仙台・青葉まつり」に参加し、堂々と踊りを披露しました。「同じ仮設住宅団地に住むおばあちゃんも駆けつけて、涙を流しながら応援する姿もあった」と鹿野さん。すずめ踊りが紡ぎだす新たな人とのつながりを実感したと言います。祭連のメンバーは「踊るとみんな笑顔になつて楽しい。もともと、地域のつながりが強い地域だったが、すずめ踊りの練習を続けるうちに、震災前の雰囲気に戻ったよううれしい」「被災した私たちが元気に踊るのを見て、ほかの人たちも元気になってもらえたら」と、充実した表情で語りました。

鹿野さんは「震災から3年が過ぎ、今後は仮設住宅を出る人も増えてくる。それぞれが新しい場所に移っても、祭連を軸に新たなメンバーを巻き込みながら、つながりが続いていくといい」と希望を語りました。

(2014年4月 取材)



仙台・青葉まつりを始め、地域の夏祭りやイベントに積極的に参加。踊りの上達よりもみんなで笑って踊ることが狙い。

概要	
設立年	1984年
代表者名	鎌田 宏
事業名	震災被災者仮設住宅すずめ踊り活動事業
事業地域	宮城県仙台市
事業期間	2012年5月1日~2012年10月31日
助成金額	150万円

障がいを持ちながらも、

地域住民と共に復興の担い手に

社会福祉法人 山元町社会福祉協議会



宮城県南部、福島県との県境の山元町にある、統合失調症など主に精神に障がいをもつ人が通う障がい福祉サービス事業所「山元町共同作業所『工房地球村』（以下、工房地球村）」。

東日本大震災発災以前は、町内の老人ホームなどの清掃を請け負ったり、山元町特産のいちごを使ったジャムなど加工食品をつくったりして、利用者が収入を得、社会に参画する機会を提供していました。

工房地球村の施設は津波被害を逃れましたが、利用者の多くが避難所での生活に。施設再開後も、清掃請負元が被災、また、工房地球村の食品加工用の機械が地震により損壊するなど、授産活動の3分の1を失いました。

その状況から立ち上がるうと、施設側と利用者が一丸となって、アートやコミュニティ・カフェなどの新たな取り組みを始めています。

震災前も震災直後も「地域に支えられていた」

「震災後、避難所などで『地球村の利用者さんだよね』って声をかけられることが多かったようで、利用者は地域の方々にとってもお世話になった」と施設長である田口ひろみさん。

また、利用者と同じ避難所になった人や元々近所に住んでいた人などが、利用者日々の体調を気遣ってくれたり、田口さんに利用者とその家族の安否を教えてくれたりし、工房地球村が地域に支えられていることを実感したと言います。

利用者を支えてくれた地域の人に恩返しをしたい、更には、震災後の環境の変化で気力を失い、自信を無くしている利用者を励まし、一緒に恩返しをしたいと様々な取り組みを始めました。

それぞれの魅力を引きだし、自信を取り戻す

毎週1回開催される、工房地球村でのアートワークショップ。絵を描いたり、うちに絵付けをしたり、紙粘土で立体作品を作ったりと、毎回約20人が参加しています。

田口さんは、アートワークショップを始めてから、利用者のリフレキシユになるだけでなく、思わぬ反応が見られるようになったといいます。「工房地球村に通う方は、年齢・障がいも様々。そんな中、いわゆる「作業」ができる・できないで、人を比べてしまうようなことが利用者間にあった。でも、アートはその人本来の魅力を引き出す力がある。作業以外のそれぞれの良さを発見できることで、尊重し合うことができるようになった」。アートワークショップで生み出された作品は、カフェ地球村で展示したり、販売する商品のパッケージに取り入れたり活用されています。

また、ワークショップを楽しむにしている利用者が多く、工房地球村へ来所する回数が増えるという、うれしい変化もありました。「工房地球村自体の魅力アップにつながった」と、田口さんは笑顔で話します。

様々な人が集う、憩いのカフェ

工房地球村と同じ敷地内にある「カフェ地球村」は、地域の様々な人が集う場となつてほしいと、2012年11月にオープンしました。

山元町は、東日本大震災で大きな被害を受け、地域の住民が気軽に集えるような場所はまだまだほとんどありません。「仮設住宅に住む男性が一人でお茶を飲みに来て、他のカフェ利用者と交流が始まったこと



カフェ地球村は、工房地球村の利用者や家族を始め、周辺の住人なども利用し、様々な交流の場となっている。



月に1回、仙台オペラ協会の講師・ピアノ講師によるゴスペルの歌とダンスの時間も。英語の歌にも挑戦する予定。



アートワークショップで完成させた絵に、大満足の表情。週一回のアート活動を楽しみにしている利用者も多い。

もあつた」と田口さん。カフェ地球村のオープン以来、地域住民の憩いの場となるだけでなく、山元町の復興や工房地球村を応援する県外からのファンも訪れています。

15席ほどの小さなカフェですが、インテリアにこだわりが感じられる居心地の良い空間。工房地球村の利用者が接客をするなど、スタッフとして活躍しています。

カフェ地球村の空間づくりは、フードコーディネーターや接客の専門家、月に1〜2回研修を行います。

メニューボードづくり、カウンターの整理整頓の仕方、ライトの当て方など、カフェ地球村のイメージアップにつなげています。

また働くスタッフへは、おじぎとあいさつの練習や、身だしなみ、接客の仕方などの研修を行いました。「生き生きと接客できるように、」

「カフェはおもてなしをする場所」という意識が芽生えています（田口さん）。さらに、東京の先駆的なコミュニティ・カフェの視察を実施。空間づくり、接客、商品のクオリティなど、サービスの質を高めることの重要性を学び、工房地球村の目指すものが再確認されました。

地域を盛り上げる存在を目指して

工房地球村のこうした活動は、「地域のために貢献したい」という思いが原動力。「震災後、施設が時間閉鎖になった時、自らも被災している住民の皆さんが協力してくれて運営を再開できた。その後全国から多くの人が心配して駆けつけてくれたり、商品を買うことで支援してくれたり、これほど愛情やエネルギーを感じたことはなかった。私たちが還元できるのは、工房地球村の活動を通して地域を盛り上げていくこと」と力強く語る田口さん。

更に「山元町の復興は始まったばかり。復興の担い手として、障がいのある人も地域のために活躍できることを示したい」とも。「山元町に工房地球村がないと楽しくない」と言ってもらえるようになりたい」と、誰もが生き生きと暮らせる魅力的なまちづくりに向け、これからもチャレンジを続けます。

(2014年3月 取材)

概要	
設立年	1998年
代表者名	鈴木 敏勝
事業名	アートとコミュニティスペースによる障がいの地域復興参加事業
事業地域	宮城県山元町
事業期間	2013年4月1日~2013年12月31日
助成金額	250万円

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 子ども☆はぐくみファンドについて

事業概要

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと、公益財団法人地域創造基金さなぶりの協働事業です。被災地で活動する地域のNPOなどへの助成を通じて、被災3県（岩手県、宮城県、福島県）における子どもたちの生存、成長、保護、参加を支援。その活動を担う団体の成長と組織強化へのサポートを通じて、被災地の子どもへの健全な成長を支援しています。



応募状況

	短期支援事業	単年度支援事業	継続支援事業	合計
申請件数	46件	134件	57件	237件
申請金額	1,369万円	25,103万円	24,490万円	50,963万円
助成決定件数	20件	56件	38件	114件
助成決定金額	591万円	10,235万円	16,969万円	27,795万円

対象：2014年6月末迄。支援事業一覧はP.55～

県別助成実績

	短期支援事業		単年度支援事業		継続支援事業		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
岩手県	1件	30万円	6件	1,104万円	9件	3,868万円	16件	5,002万円
宮城県	13件	382万円	29件	5,528万円	18件	8,000万円	60件	13,910万円
福島県	4件	119万円	16件	2,833万円	8件	3,605万円	28件	6,557万円
その他	2件	60万円	5件	770万円	3件	1,496万円	10件	2,326万円

※金額を万単位の概数としているため、合計が合わない場合がある。対象：2014年6月末迄

事業を通して 見えてきたこと

岩手県、宮城県、福島県に拠点を持ち、主に妊産婦を含む0才～18才の子どもの日常を支えるNPOの活動や、その基盤強化に助成を行いました。

震災により、子どもの日常は大きく変化しました。学校は避難所として利用され、多くの仮設住宅が公園や校庭に建設されました。また、大きな環境の変化はこれまであつたコミュニティを分断し、経済的な不安定さや先行きが見えない暮らしの中で子どもを持つ親の負担や不安も増大させました。

子ども☆はぐくみファンドでは、これまでに障がいをもつ子どもの放課後支援、中高生が主体となったまちづくりの事業などを支援しました。また、中長期にわたつて子どもの支援が必要であることを考え、最大3年間の継続支援事業の実施や、地域を越えて支援団体が集まり学びあう研修を実施しました。

地域の今と未来は、地域の子どものなしには語れません。今後も個別の子どもの課題に応じたNPOによる柔軟かつ継続的な支援が必要とされています。



みやぎくりはらこどもねっとわーく 【子ども☆はぐくみファンド 2012年第2期単年度支援事業 他】

助産師が「サロン」と「訪問」で 母親を元気に

特定非営利活動法人

こそだてシップ



被災地で出産を控えた母親や子育てをする母親のために、助産師として何かできるのでは……。岩手県大船渡の助産師有志が立ち上げた「こそだてシップ」は、震災によって集まる場所や相談相手をなくした母親が、気軽に集まれる居場所にとママサロンを開設しました。妊産婦にとって、いま必要なことは何かを考え、求められる状況に合わせて活動内容を変化させていく、専門知識のある相談相手として妊産婦から頼りにされています。

「安心してくつろげるサロンをつくる」

震災前から開いていた妊産婦のための相談室を、震災後2カ月と早く早さで再開し、ママサロンの立ち上げへと奔走してきた、こそだてシップ代表の伊藤怜子さん。「もともと大船渡や陸前高田など沿岸部は、産婦人科が少ない地域なんです。お母さんたちが気軽に来て、相談して、癒されるように」と、大船渡と陸前高田の両市で月1回ずつママサロンを開いています。

当初は、妊婦や1歳半までの乳児とその母親が対象でしたが、「子どもが2、3人いる母親ほど参加したい、手助けしてもらいたい」と思っている人が多いから」と未就学児まで広げることに。それまで一つの部屋だったママサロンを、妊婦と1歳までの「ベビールーム」と、1歳以上の未就学児親子の「キッズルーム」に分けたことで、いったん卒業した親子もまた集えるようになりました。

ある日、陸前高田で開かれたママサロンでは、畳敷きのベビールームに、助産師によるママのハンドマッサージコーナーやお茶っこコー



キッズルームは、思いきり体を動かせる広いスペース。今後は音楽や芸術などに触れられる場にもしたいと考えている。

ナー、赤ちゃんの体重測定コーナーには、市の保健師の姿もありました。「子育てで手伝えることがあれば」と行政に声をかけをしたことで、市の保健師と連携して活動できるようになっています。サロンでは、ベビータンスで赤ちゃんと一緒に体を動かす母親もいれば、抱っこボランティアに赤ちゃんを預けてママとゆっくり話をする母親も。キッズルームでは、リトミックなどで体を動かして、子どもたちののびのび。サロンの活動は、母親がすぐに役立てられる離乳食のつくり方や絵本の読み聞かせなど、毎回内容は異なりますが、欠かさないのが助産師による母親へのハンドマッサージです。

「365日24時間、常に子どもへ愛情いっぱい育てられるお母さんは、そうそういません。ハンドマッサージしているときにぼろりとこぼす言葉や、子どもに対する表情から、声なき声を感じとって、お母さんがストレスをため込まないように」と育児の相談にのります。参加する母親からは「ハンドマッサージや手づくりおやつは、月に1度の贅沢な時間」「仮設住宅では子どもが泣き出すと、うるさいかと心配になるけど、ここに来ればどんなに泣いても大丈夫」という声も少なくありません。

「仮設住宅を巡り、サロンに来られない親子のもとへ」

サロンは、開設2年で延べ1000組の親子が利用する場所として定着してきました。それでも伊藤さんたちスタッフは「サロンに来たくても来られない、来る気力がない、家族の介護もしているお母さんもある」と山間や海辺まで「こそだてシップ号」を走らせ、仮設住宅や自宅に向かっています。訪ねると、待っていたかのように家にあげ、母乳相談や育児相談をする母親。その状況に合わせて、母乳の分泌を良くする食事やイヤイヤ期の対応法などをアドバイスします。それは、インターネットの情報だけでは対応しきれない、赤ちゃん一人ひとりに合わせた方法です。

仮設住宅での育児についても「お腹が大きくなったら、近所の人にあいさつをしてね。産まれたら、赤ちゃんの顔を見せるのよ。そこにいる人の手を借りること。年配の人は声をかけてもらいたいのだから」という人生のベテランならではの知恵も。「こそだてシップの電話番号が留守」という母親がいるほど、その信頼は厚いものです。これまで延べ192カ所に上る巡回訪問には、2013年10月から新生児への沐浴サービスが加わります。それも、「お母さんの疲れがピークになる時期に」という配慮から。本当に必要なときとされるときに、必要な支援を届けたいという想いからです。

「いつかはお城のような」子育て支援センター」

ママサロンや赤ちゃん巡回訪問を支えるスタッフは、地元の助産師有志に加え、東京の助産師がボランティアで駆けつけています。限られたスタッフ数であっても、必要とされる支援に気づけば、行動に移していく。それは、助産師の気質でもあるようです。「出産のときは、24時間でも分娩室でお母さんと一緒。瞬で終わる仕事ではないんです。お母さんたちをなんとかしたいという熱い想いと行動力が根底にあるんです」と伊藤さん。

大船渡と陸前高田で全戸配布される市の広報誌にも、こそだてシップの活動情報載るようになりました。今後、より求められるのがスタッフの確保です。「笑われるかもしれないけど、赤レンガ造りのお城のような子育てセンターがほしいと思っています。交通の便利などところにコミュニティの中心となる核施設があって、お母さんたちが買い物できて、赤ちゃんや子どもが過ごせる部屋があつて。そうしたら働いてみたいスタッフも集まるかも」。笑顔で語る伊藤さんは、この土地で産まれた子が、ここでまた子どもを産み育てていくように、という想いがあります。



こそだてシップ号に乗って、妊産婦の家を巡回する伊藤代表(左)。育児法のアドバイスも喜ばれている。

概要	
設立年	2011年9月
代表者名	伊藤 怜子
事業名	ママ&ベビーサロン「こそだてシップ」
事業地域	岩手県大船渡市、陸前高田市、住田町
事業期間	2012年5月1日～2013年4月30日
助成金額	150万円

(2013年10月 取材)

アートを活用した子ども 居場所づくり、仲間づくり

特定非営利活動法人 にじいろクレヨン



被災した子どもは大きなストレスを抱えながら発散する場がなく、大人以上に我慢を強いられている——石巻在住の画家でありお絵かき教室を主宰していた柴田さんは、自らも被災して避難所に身を寄せた際、子どもたちの心のケアが必要と痛感し、震災直後の3月22日に団体（現・NPO法人）にじいろクレヨン）を立ち上げました。当初は避難所の子どもたちを対象に、被災をまぬがれた家庭から募った紙やクレヨン、支援物資の玩具など、手に入るものを利用し、ストレス発散のためのレクリエーションを提供。2011年夏以降は仮設住宅に活動の場を移して子どもも支援を続けてきました。現在は石巻市を中心に宮城県内8カ所の仮設住宅で「アートを活かしたプログラム」を実施。子どもが安心して遊べる居場所づくり

子どもが子どもらしく遊べる環境を

「アートを活かしたプログラム」は、各仮設住宅の集会所や談話室で週1回（各回2〜3時間程度）行っている訪問型のレクリエーション活動です。粘土遊び、折り紙、木工、布を使った衣装づくりなど、柴田代表のノウハウを活かした多彩な内容ですが、「アートはあくまで手段。目的は子どもたちの居場所づくりですから、毎回テーマは用意するけれど、子どもの希望に応じて自由に遊んでもらっています」と、柴田さん。

たとえば紙ヒコーキを飛ばそうが鬼ごっこに変わることもあれば、子どもが自主的に始めたお部屋さんごっこがポスター制作に発展することも。また仮設の敷地内には自由に走り回れる場所が

んでいるのも同団体の大きな特長です。

「市街地では公園をつぶして仮設を建てたケースが多く、元から住んでいた子どもも遊び場が制限されている。また被災して新しく家を建てて越してきた世帯の子どもなど、様々なバックボーンを持つ子が混在しています。知らない子ども同士が仲良くなる交流の場がもつことも必要だと思います」（柴田さん）。

地域全体で子どもを見守る仕組みづくり

活動を続ける中で、柴田さんは「子どもがのびのび育つには地域のコミュニティ再生が不可欠」と改めて気づいたといいます。「大人たちの交流がないと、家の前で遊んでいる見知らぬ子どもは、異物でしかない。地域全体で子どもを見守る状況をつくっていかなくては」。そこで2011年秋から、石巻市の3つの仮設住宅で大人を対象とする「お茶会」を開催（月2〜3回）。絵手紙や手芸を楽しむながら居住者が交流を深め、子どもや孫の顔が見える関係性づくりを目指しています。

「手探りで活動してきましたが、今後、復興住宅への移転が始まる時、子どもをどう支援すべきが見えてきた」と柴田さん。遊び場の確保、（集会所でシルバード世代が昔の遊びを教えるなど）子どもを軸としたコミュニティ形成、さらに地域の子どもの集いの場、プレーパークづくりも目標だといいます。

「被災地の子どもが心豊かに育つ環境を、地域の大人たちとともに創造する」——そんな将来に向けて、組織としての基盤強化にも力を入れています。ボランティアスタッフ向けに行っている研修制度もその一つで、現場リーダーとして活躍する多くの人材を育成してきました。さらに「お絵かき教室」（月謝制）の参加者増を図り、展示会や体験教室などのイベントを実施。被災地の子どもを長期的に支援するため、様々な角度から活動の基盤づくりに取り組み、成果を上げています。（2013年9月 取材）



仮設住宅の集会所で、この日は布を使った衣装づくり。スカートや帽子を作り、最後はファッションショーで盛り上がる。



代表の柴田滋紀さん。「アートを活かしたプログラム」を率先して行いつつ、お絵かき教室も開催している。



スタッフとともに「ランプシェード作り」を楽しむ子どもたち。バーナーで焦げ目をつけた木材はシェードの底部分に使う。

ないため、公園や校庭での外遊びも頻繁に行っています。時に喧嘩も起こりますが、「それも含めて子どもが子どもらしく過ごせるよう」適切な距離を持って見守っています。

ストレスを解放し、仲間づくりができる場に

今でこそ活き活きとした表情で遊ぶ子どもたちですが、当初はスタッフに暴言を吐いたり、過度に甘えることもしばしば。「フィンガーペイント（指に絵の具をつけて描く遊び）をすれば画用紙が真っ黒になるまで手形を押し続ける」など、心の荒れや鬱屈が作品にもよく表れていたといいます。

震災体験に加え、仮設住宅への移転にともなう転校、元の学校にスクールバスで通学しているため、放課後、同級生と遊べないなど、生活環境や友達関係の激変が子どもにあたえたダメージは計り知れません。また親たちも生活再建に追われ、子どものメンタル面まで手が回らないのが実情です。保護者に実施したアンケートでは「子どもと遊んでやれず、子どもも遊んでくれとも言わず一人でゲームばかりしていたが、にじいろクレヨンが来てくれるようになってから外遊びが増えた」、「友だちが増えた」といった回答が大多数。子どもにとって心を解放し、仲間づくりができる貴重な場であることがうかがえます。

被災地のすべての子どもが支援対象

元々、仮設内には子どもが遊べるスペースがなく、集会所も大人が占有しているのが通例でした。その現状を、子どもの豊かな心の育みという視点から変えた点、そして固定したスタッフが定期的に訪問し、子どもとの間に強い信頼関係を築いてきたことも特筆すべきでしょう。またプログラム参加者を仮設住宅の子どもに限定せず、「地域のすべての子どもたちの居場所づくり、交流の場づくり」に取り組

概要	
設立年	2011年
代表者名	柴田 滋紀
事業名	子どもの居場所づくり事業
事業地域	宮城県石巻市、東松島市
事業期間	2013年1月1日~12月31日
助成金額	500万円

気仙沼の高校生による

まちづくりをサポート

特定非営利活動法人 底上げ



震災の1週間後から宮城県気仙沼市に入り、物資の配給や避難所運営の支援、全国から学生ボランティアの受け入れなどを行ってきた「底上げ」の代表、矢部寛明さん。当時、東京の大学を卒業間近。就職内定先を辞退して気仙沼市に拠点を移し、仲間と「底上げ」を立ち上げました。地域のニーズに合わせて学習支援などを行う中で、高校生のモチベーションをアップ。「自分たちのまちを良くしたい」という気仙沼の高校生有志団体「底上げYouth(ユース)」が発足しました。高校生の目線からアイデアを出し合い、地域を盛り上げていく気仙沼の高校生たちの、縁の下の力持ち的役割を担っています。

学習支援を機に、高校生が団体結成

団体名の「底上げ」には、東日本大震災をきっかけにして、社会全体の意識の底上げをしていきたいという思いが込められています。底上げのボランティアは9割以上が学生ボランティア。仮設住宅やコミュニティスペースでの学習支援では、全国から来た大学生が高校生や中学生に勉強を教えるだけではなく、子どもたちと一緒に考え、楽しい時間しようという意識で接していました。

学習支援を行っていたある日、大学生が何気なく発した「気仙沼は良いところがいっぱいあるよね」という一言から、新しい一歩が始まりました。高校を卒業したら地元を離れたかと思っていた子どもが多いなかで、外部から来た大学生が口にした気仙沼の魅力は、今まで意識したことのない視点だったといいます。「魅力をもっと知って、



地元の人たち85人を前に、高校生の目線から地元の観光ツアーを提案。この報告会を機に、活動メンバーが急増。

地元のために何かしたい」と幼なじみの女子高校生2人が反応。2人が中心となって、それぞれの高校の友達や後輩に声をかけ、7人で「底上げYouth(ユース)」を立ち上げました。そこから気仙沼各所へのヒアリングを行い、地元の理解を深め、魅力的だと思われるところをピックアップしてきました。

底上げの理事、成宮さんは「底上げYouthの活動当初は、メンバーの意見が出やすいよう進行役として1人ずつ意見を促していましたが、次第にメンバーがしたいことをフォローする役割に変わってきた」とメンバーの自主性に変化を感じています。

受け身から主体的に意識が変化

まちを盛り上げるため、観光に力を入れることにしたメンバーたち。着目したのは、新しいものではなく埋もれている文化など、地域に根ざしたものでした。毎年まちで開催されている「落合直文全国短歌大会」は、メンバーにとって小学生のころから短歌を応募してきた馴染みのある催し。といっても、気仙沼出身の明治の歌人であり国文学者である落合直文のことも、現存する生家「煙雲館」のことも、詳しくは知りませんでした。

生家を何度も訪ねて話を聞くことで、直文が「恋人」という言葉を初めて使った人であることを発見。「恋人のまち」として気仙沼をアピールすることに。気仙沼の名所を恋人スポットと位置づけ、ラプストーリーに盛り込み、手作りのリーフレットを完成させました。リーフレットの完成を記念して開催した活動報告会では、恋人エピソードを題材にした寸劇も。地元の人や保護者、同級生など85人を前に発表する姿を見た高校生が「カッコいいリーフレットを作って、発表会も高校生だけで行えて、おもしろそう」と新加入し、メンバーは二気に23人に増加しました。

メンバーは、決して積極的な子ばかりではありませんでした。「最初の頃、高校生たちからは『できない』『仕方ない』という言葉

が出ていました。それが、底上げスタッフの『できないことないよ』『それいいね!』という口癖が移って、『できるよね』に変わり、自分たちで考えて行動するようになっていった」と、成宮さんは高校生の変化を間近で見えました。

子どもが、大人とまちを変えていく

底上げYouthのメンバーは「なんでもできるようになろう」と自分たちで進行役や議事録係、広報係などを、持ち回りで担当。当初はおとなしなかったメンバーも、「今日は私が司会進行やります!」と手を挙げるように。活動も興味に応じて、観光が主体の「恋人チーム」の他に、歴史ある気仙沼みなとまつりの由来を調べてうちわに制作する「お祭りチーム」、郷土料理を地元のばっば(おばあちゃん)に学び、自分たちの視点からアレンジしたレシピづくりを行う「フードチーム」など、学校や学年の違いを越えて自分たちのしたいことに取り組んでいます。

保護者からは「今まで家ではあまり話をしなかったけれど、活動を始めてからよく話すようになった。明るくなつた」という声も聞かれます。

高校生の活動を地元の住民は応援し、活動を知った首都圏の高校からは交流会の希望が入るようになりました。高校生は、活動が認められ、自信がついたことにより、進学や仕事の選択もより幅広い観点から考えられるようになったといいます。「進学先にコミュニティデザイン学科を選んだ生徒もいます。進学で離れても、また地元に戻り、学んだことを生かして、社会人になっても地域の魅力を発信する活動に携わりたいという声も上がっています」と話す成宮さん。

地元の伝統や文化など埋もれた魅力を掘り起こし、発信する活動を通して、自分にも、ふるさとにも自信をもつ好循環が生まれています。(2014年1月取材)



「アイデアを出し合い、どう実行するか話し合うのが楽しい」という底上げYouthメンバーと成宮さん(左から2人目)。



観光パンフレットを制作した底上げYouth。気仙沼観光コンベンション協会会長と、キャラクターのホヤぼーやと。

概要	
設立年	2012年
代表者名	矢部 寛明
事業名	気仙沼 続・こどもまちづくりプロジェクト
事業地域	宮城県気仙沼市
事業期間	2013年1月1日~12月31日
助成金額	150万円

サントリー・SCJフクシマ スムプロジェクト 福島子ども支援NPO助成について

事業概要

サントリーホールディングス株式会社、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとともに取り組む福島の子ども支援事業です。福島県、および福島県からの県外避難者が居住している都道府県に活動拠点を有するNPOを対象に活動資金を助成。福島の子どもを多面的にサポートし、より豊かな成長環境を創出する活動を支援していきます。



応募状況

	第一期	第二期	合計
申請件数	88件	72件	160件
申請金額	33,515万円	35,734万円	69,250万円
助成決定件数	15件	25件	40件
助成決定金額	4,744万円	10,020万円	14,764万円

対象：2014年6月末迄。支援事業一覧はP.58～

県別助成実績

	第一期		第二期		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
宮城県	1件	500万円	1件	800万円	2件	1,300万円
福島県	7件	2,058万円	13件	5,020万円	20件	7,078万円
その他	7件	2,186万円	11件	4,200万円	18件	6,386万円

*金額を万単位の概数としているため、合計が合わない場合がある。対象：2014年6月末迄

事業を通して 見えてきたこと

震災後、福島の子どもが置かれた厳しい状況に鑑み、地域で福島県の子ども（県外避難者を含む）支援に取り組んでいるNPOに助成してきました。困難な状況にある子どもへの負担・不安の緩和や、成長環境が改善されることを目指しています。

フクシマ スム プロジェクト 福島子ども支援NPO助成では、福島県内の子どもの屋内遊び場運営に取り組む団体、福島県外へ避難して生活している子どもとその家族を対象に相談活動などを行っている団体、また、心身に障がいがある、外国にルーツを持つなど、社会的に弱い立場に置かれている子どもを支援する団体、何らかの事情から自分の家族と生活できない子どもへの支援に取り組む団体などに助成してきました。

福島の子どもは、いまだ非常に複雑な状況下にあり、多岐にわたる課題を抱えています。今後も引き続き、個別的、かつ継続的な支援が求められています。



(特活) 臨床心理オフィスBeサポート [サントリー・SCJフクシマ スム プロジェクト 福島子ども支援NPO助成 第一期支援事業]

なごめる民家で避難ママの 子育てをサポート



特定非営利活動法人 やまがた育児サークルランド

福島県からの避難者を多く受け入れている山形県。2013年11月現在、その数は約6500人を数え(2013年11月現在、山形県調べ)、大多数が福島県からの避難者です。避難者全体の7割を子どものいる世帯が占め、母子のみの生活も少なくありません。子どもへの放射線の影響を心配し、福島から移り住んだママたちです。山形市内で10年以上にわたって乳幼児のいる家庭のママたちの育児支援を行ってきた「やまがた育児サークルランド」は、中心部にあるビルのワンフロアで親子ひろば「子育てランドあぐべ」を運営しています。そこを2011年夏以降、避難したママが「遊びに来ていいですか」という遠慮がちな言葉で訪れ始めるようになりました。そこで、地域の公民館やコミュニティセンターへ出向いてサロンを開くことに。サロンには、多い日には約200人も。避難が長期化する中、福島から避難してきたママ同士や山形の人たちと交流できる常設施設が必要と、2012年11月に開いたのが「軒家の「福山ひろば」です。

「ただいま」「おかえり」と集う家に

福島と山形の人と一緒に集える場所にと、福島県の「福」と山形の「山」から名づけた「福山ひろば」は、山形駅から車で約5分。山形大学近く、古くからの住民と転勤族の新旧住民が暮らす地区にあります。

物件選びの際に代表の野口比呂美さんが考えたのは「地域も年代も関係なくいろいろな人が出入りして、くつろげる場所」でした。移動手段の中心が車になる山形では、駐車場も必要です。隣接地

に5台分の駐車場を確保した「福山ひろば」は、昭和の民家といったたたずまい。築約40年の2階建て、約180㎡の広さです。1階に、ひろばスペース8畳、遊びコーナー6畳のほか、畳と板敷のサロンスペースがあり、ダイニングキッチンも数人で調理できる十分な広さ。ひろばスペースからは庭が見え、床の間には、福島から避難してきたおばあちゃんが持参した掛軸が飾られ、落ち着いた雰囲気。冬には、こたつも置かれます。

郷土料理や夏祭りから広がる輪

「子どもを遊ばせながら、疲れていたらごろんと横になってお昼寝するママもいます」とスタッフの三河悦子さんが言うとおり、週2日のフリー来館日に訪れるママと子どもは、実家に里帰りした家族のように過ごしています。こたつで暖まりながら、りんごや昼ごはんを食べて話しているうちに、ママ同士の気安さで会話が生まれ、思いの活動へと広がります。「福山ひろば」は集いの場であると同時に、交流やグループ活動の場にもなっています。

そんな中から生まれた「郷土料理研究会」では福島の「いかにんじん」を作って食べたり、針仕事の会「mamaのわ」では好きな刺し子をほどこした雑巾を縫ったり。また、新しい仲間を募り、公民館の夏祭りに「どんどんママの会」として参加。山形名物どんどん焼きやポップコーンのコーナーや手作りの的当てゲームを担当するなど、地域に溶け込んでいます。

町内会の一員として受け入れられ、近所の人とも声をかけあい、子どもの様子を見守られるようなつながりになればと、開設当初、野口さんたちスタッフは地区長をはじめ、お世話になる近所の家庭にあいさつをしまわりました。福山ひろばで催す夏まつりには地区長を招待し、周辺の住民の方への「遊びにお越しくださいね」のお知らせなどにより、自然となじんでいったのかもしれない。地域では隣近所のつきあい、福山ひろばでは家族のようなつきあい。

スタッフが子どもたちを見守りながら、ちゃんと叱ることができると、ママとの間に信頼関係ができていくから。「避難してきたときのことを、ここで初めて話せた」「福山ひろばがなかったら、こんなに元気になつていなかった」。そんなママたちの声が聞こえてきます。

避難ママの気持ちに寄り添いたい

心がけているのは、避難してきたママたちが集う場をつくり、様子を見て、必要なときに手を貸すこと。これまでの支援経験から、子育てを手伝うことはできません。でも、それだけでは足りないのではと感じることもあります。「転勤族ママの場合は自然に自主的な活動が生まれてきますが、いつ帰るかわからない根本的な悩みを抱えている避難したママたちの間では、その流れにつながりづらいです」と、一般の子育て支援とは違う難しさを感じている野口さん。退職後に活動に加わった元小学校教員の三浦照子さんにとっても「今までで一番難しい」と言います。というのも、一人ひとり置かれた状況も家族の事情も異なり、心の内が常に変わっていくからです。

山形に定住すると決めた人は、福島の人とあって距離を置き、逆に福島に帰るつもりの方は山形での深い付き合いを望まないこともあります。どのように対処したらいいのか……。これまでは、子育て支援団体なのだからと、立ち入らないようにしてきた避難者への賠償制度のことも、知らないままでは済ませられない。ママたちが必要としている情報や手続きについて、少しは理解できるように、弁護士などによる研修も取り入れるようにしています。

先月初めて、山形から福島に帰っていくママを送り出したスタッフ。帰ってから気軽に福島と山形を行き来できるように、福山ひろばを宿泊できる相談場所にできればという構想もあります。これまでに経験のない支援活動であっても、今後求められるであろう役割を見越して、避難したママを支える活動が続きます。

(2013年8月 取材)



庭先にあるプチ畑で育てている野菜や花。水やりもみんなで協力。収穫した野菜を調理して、ランチ会を開くことも。



昭和に建てられた民家の座敷が、ひろばスペース。実家に帰ったような雰囲気、おにぎりをつくってお昼ごはん。



右から代表の野口さん、スタッフの三浦さん、三河さん。「福山ひろば」の門先には、活動情報などを掲示して入りやすく。

概要	
設立年	1998年
代表者名	野口 比呂美
事業名	長期避難家庭支援の子育てひろば事業
事業地域	山形県山形市
事業期間	2013年1月1日~12月31日
助成金額	488万円

福島から各地に避難した発達障がいの子どもを全力でサポート

特定非営利活動法人 MMサポートセンター



南相馬市で20年以上にわたり、発達障がいを持つ子どもの社会的自立を目指しサポートする「療育」を続けてきた「特定非営利活動法人MMサポートセンター（以下、センター）」代表の谷地ミヨ子さんは、原発事故で避難を余儀なくされ、宮城県名取市に拠点を移した後も、各地に散り散りになった福島の子どもを親身にサポートしています。発達障がいの子どもを支援する法制度はあるものの、サポートできる専門家の数は不足しているのが現状です。そのため震災後まもない時期から避難先を訪問して相談対応、個別指導を行ったたり、また送迎付きで教室での療育を行ったりと様々な支援を続けてきました。交通費や送迎にかかる費用などの負担がありました。2013年に「フクシマスマスンプロジェクト 福島子ども支援NPO助成」を活用することで継続的な支援が可能になり、震災・原発事故により困難な状況に置かれた子どもを全力で支えています。

震災後3カ月目頃からSOSが急増

自閉症・アスペルガー症候群・注意欠陥多動性障がい（ADHD）・学習障がい（LD）をもち、学校や社会生活に困難がある子どもであっても、「高機能（知能指数が一定以上）」の場合、または身体障がいがない場合、福祉制度上は「障がい児」と認められず、療育手帳を受け取ることは出来ません（谷地さん）。震災当時、センターに通っていた約120人の子ども9割がこのような「福祉と教育制度のはさまに置かれた子どもたち」。そのためセンターの活動も公的な助成の対象外とされ、また元の教室は原発30キロ圏から100欠」。土日は40人規模の集団トレーニングを行います。南相馬市周辺の子どもは教室まで送迎も。なお現在の教室は2013年5月に完成したもので、プレールームや広い作業スペースが設けられています。

1日のスケジュールには運動遊び・手先を使う作業・ゲーム・食事やトイレのトレーニングなど多彩なメニューがあり、そこに多くの課題が組み込まれています。例えばどのお菓子を食べるかをグループごとに話し合っ決めて「話し合いのゲーム」では、「我慢すること、人と折り合いをつけること」を体験的に学習。またプレールームでは年齢の違う子どもが一緒に遊ぶことで「どうしたら他の子どもとぶつからずに楽しく遊べるか、人との距離の取り方や小さい子どもへの気遣いが自然に身に着きます」。これらソーシャルスキルトレーニングと総称される訓練を繰り返すことで集団生活への適応が容易に。それだけでなく、子どもにとっては二つの課題を達成し、褒められることで自信がつき、自己肯定感が育まれるといえます。

10年後を見据え、スタッフの育成に

センターには子ども用の宿泊室もあり、短期・長期の宿泊トレーニングも行っています。短期の宿泊は「小学校で実施する宿泊訓練でのトラブルを未然に防ぐ」ことが主な目的。30人ほどを同時に預かり、集団生活に慣れるよう練習します。そして長期の宿泊は将来の自立に向けた日常生活全般のトレーニング。さらに南相馬市以南の避難地域に保護者が一時帰宅する際の、子どもの一時預かりも行っています。

幼少期から継続的に支援することで障がいがあっても自立した生活が送れるようになり、「成長後、持ち前の豊かな才能を発揮するケースも多い」と谷地さん。「今後は人材の育成が一番の課題。スタッフの育成には10年くらいかかるので、それまで1年365日、全力で頑張りたい」と笑顔で話します。（2013年11月 取材）

メートル外側にあつたためほとんど賠償も受けられず、自力での再スタートとなりました。2011年4月から名取市の仮拠点で教室を再開し、周辺地域に避難した子ども療育を始めましたが、6月頃より、全国に避難した家庭から緊急の相談が急増。「発達障がいの子どもの多くは環境の変化に弱く、長引く避難生活で相当の我慢を強いられはたはずです。その反動というところに加え、避難中の生活のリズムの乱れや、目に見えにくい障がいだけに学校で十分な理解が得られなかったことなどが原因で、震災後3カ月目くらいに気にトラブルが増えた」といいます。

家庭訪問する中で保護者にも子どもにも安心感が

避難先の学校に子どもの状況を詳しく説明する、サポート出来る専門家を探して療育を引き継ぐといった支援もすぐに始めました。これは小学校教諭を経て発達障がい児の療育に取り組み、幅広いネットワークを築いてきた谷地さんだからこそ出来た支援といえます。

同時に車で通える範囲の家庭には訪問型の個別指導も行っていました。訪問する場合、「移動できる教材を一式持って行って、その場で出来る指導を行う。教材は貸し出して次に伺う時に別のものと交換する」というやり方です。時には畳二畳分のスペースにミニチュアを並べる箱庭療法の道具を持っていき、避難先が狭い場合、移動用の車の中で指導したりと臨機応変に。先の見えない避難生活に不安を抱える保護者も多く、それが子どもの情緒不安を増幅するケースもありましたが、谷地さんが訪問して話を聞くことで保護者も安心感が得られ、結果的に学校での子どもトラブルが減るといって好循環もありました。

教室で行う「ソーシャルスキルトレーニング」

一人ひとりの発達に合わせた指導と同時に「集団での療育も不可



避難先を訪問し、家庭に教材を広げる場所がない場合は車中でゲームや絵本などを使い療育を行う。



2013年5月に完成した現センターにて、代表理事の谷地ミヨ子さん。療育プログラムに使う道具がたくさん。



ボルダリング(壁のぼり)、ターザンロープ、ボールプール、マットなどの遊具を置いたプレールーム。

概要	
設立年	1991年
代表者名	谷地 ミヨ子
事業名	原発避難発達障がい児への支援・相談
事業地域	福島県全域、全国
事業期間	2013年1月1日～12月31日
助成金額	500万円

避難中の子どもの心を癒し、 地域の人とつながる遊び場づくり

特定非営利活動法人 いわき自立生活センター



東日本大震災後、約1000戸の仮設住宅が建設された福島県いわき市中央台には、原発事故で避難を余儀なくされた広野町・楢葉町民や津波被害に遭った市沿岸部の人が各ブロックに分かれて暮らしています。同地区に本部事務所を置く「いわき自立生活センター」は障がい福祉サービスが本来の事業ですが、「被災者支援、特に我慢を強いられる子どもたちのサポートが急務」と、2011年8月団体の敷地に「パオ広場」を開設。モンゴルの移動式住居「パオ」を模した建物3棟を中心にウッドデッキや花壇、フリースペースを配し、子どもたちが思う存分遊べるよう環境を整えてきました。

そして故郷に帰還する世帯も増えている今、友だちと離ればなれになつた子どもにとって「パオ広場」は「ここに来れば懐かしい仲間と会える」「再会の場所であり、心よりどこともなつていきます。」

子どもが子どもらしく過ごせる場を

元々、コミュニティの造成が進められていた中央台地区に同団体は障がい者向けのグループホームを建設する予定でした。しかし震災の影響で建設は延期され、本部事務所は広野町民のプレハブ仮設(約400戸)に取り囲まれるかたち。「子どもの法人も被災しましたが、より厳しい環境に置かれた人たちの支援が天命と感じた」と、理事長の長谷川秀雄さんは振り返ります。

慣れない土地で困っている人への相談対応や支援物資の提供を行いつつ、グループホーム用の敷地に屋内外で遊べる「パオ広場」を整備。「当時、被ばくへの不安から子どもたちは外遊びを制限され、狭い仮設住宅で息を

ひそめるように過ごしていました。ストレスを発散し、子どもらしく過ごせる場が必要だった」と、長谷川さん。企業から寄付されたプレハブの「パオ」にテーブル・椅子・本棚などを整備して居心地の良い空間にし、スタッフが交代で見守ることに。また敷地全体に新しい山砂を盛り土し、保護者が安心して子どもを遊ばせられるよう配慮しました。

遊ぶことで癒され、成長する子どもたち

学校の放課後や長期休み中、屋内では読書やゲーム、屋外ではトラampoline・バトミントンなど様々な遊びが楽しめる「パオ広場」に子どもたちは嬉々としてやってきました。担当スタッフの齋藤典子さんによると、「子どもが興味を持つ遊びはその時々で変わりますが、開設してしばらくの間は誰もかも砂遊びに夢中。毎日、泥んこになって遊んでいました。子どもにとって土に触れる遊びの大切さが分かったので、今も2カ月に1度、トラックで新しい山砂を運んでいます」。

当初は「遊具をわざと壊す」などストレスを真正面からぶつけてくる子どももいましたが、叱るべき時は叱り、親身に話を聞く齋藤さんらに少しずつ心を開き、「今では親子が友だちのよう」。かつてのいたずらっ子が高校生になつても会いに来て、「卒業したらこんな職業に就きたいんだ」と目を輝かせて話すことも。「そういう時は本当に嬉しい」と齋藤さん。そして日常的に見守る中で、子どもが遊びによつて自らの心の痛手を癒し、逞しく成長する力に気づかされたと言います。

子どもは震災の一番の被害者

とはいえ、「パオ広場」の主たる利用者・広野町の子どもたちは、2012年3月に町の避難指示が解除されて以来、新たな生活の激変に晒されています。すでに広野町に帰還した子ども、いわき市内の仮設住宅からスクールバスで広野町の学校に通う子ども、仮設

住宅近くのいわき市内の学校に転校した子どももいて「元々、結束が固く仲の良かった子どもたちがばらばらになつた」(齋藤さん)。

また父親は仕事の関係で広野町に戻り、母親と子どもはいわき市内に残るケースや、意見の違いから両親が離婚してきょうだいが別々に暮らすなど、「家庭も分断されてしまつた子どもも少なくない」とか。「大人の事情でころころと生活環境が変わつてしまう子どもは、震災の一番の被害者」と、長谷川さん、齋藤さんは口をそろえます。

子どもたちの再会の場であり、 老若男女の憩いの場

不安定な状況に置かれているだけに「パオ広場」で慣れ親しんだスタッフや友だちと再会することが心の支え」という子どもも多く、学校の休みの日、広野町からバスを乗り継いで遊びに来る男の子も。特に年6回開催するお花見・クリスマスなどのイベント時は懐かしい顔ぶれが揃つて大いに盛り上がりがあります。

そして震災後3年を経た今、「パオ広場」は地域の人の憩いの場として広く親しまれるように。仮設住宅に居住する人が「恩返し」と手入れしている花壇や菜園は、仮設住宅団地にあつて貴重な緑地。周辺地域の人が散歩がてら立ち寄りたり、近隣の学校の生徒が連れ立ってやつて来たりと賑わっています。

同団体は「今後も長く活動を続けたい」と、助成を活用して「パオ広場」の存続に努め、新たに子どもを見守る専任スタッフも雇用。「この先、仮設から退去する人が増えるにつれ、残された人の不安や寂しさも増すでしょう。最後の一人が退去するまで支援を続けたい」と長谷川さん。将来的にはグループホーム建設後も「パオ広場」の一部を残し、「地域の人に活用していただく」と同時に、震災時の我々の活動を伝える生きた記録として残したい」と力強く話します。

(2014年5月取材)

概要	
設立年	1996年
代表者名	長谷川 秀雄
事業名	子どもの放課後活動への支援事業
事業地域	福島県いわき市
事業期間	2014年1月1日~2014年12月31日
助成金額	277万円



パオ内で実施したイベント・チョコレートづくり。広野町に移転した小学生の女の子も参加し、仲間との再会を喜んだ。



温室栽培用のドーム型プレハブを補修し、居心地の良い空間に整備した「パオ」。改修には仮設住宅の居住者も協力。



「パオ広場」の開設に尽力した理事長の長谷川秀雄さん(左)と、スタッフの齋藤典子さん(右)。

中小企業庁「創業補助金」について

事業概要

新たに起業・創業を行う女性や若者などに対して、創業に要する経費の一部を補助するものです。新たな需要や雇用の創出により、地域経済を活性化することを目的に創設されました。当財団は、独立行政法人中小企業基盤整備機構からの委託により、岩手県・宮城県・福島県の運営事務局を担当しており、同地域内の起業・創業者を支援することで、小さな事業の芽を大きく育てるサポートをしています。

中小企業庁 平成 25 年度補正予算
創業補助金（創業促進補助金）

応募状況

	第1回	第2回	第3回	創業促進補助金 (先行分)	合計
申請件数	24件	84件	336件	80件	524件
申請金額	7,200万円	23,600万円	86,000万円	16,000万円	132,800万円
採択決定件数	20件	71件	155件	47件	293件
採択決定金額	5,600万円	19,900万円	38,300万円	9,400万円	73,200万円

対象：2014年6月末迄。支援事業一覧はP.61～

県別採択実績

	第1回		第2回		第3回		創業促進補助金 (先行分)		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
岩手県	3件	600万円	15件	3,800万円	24件	5,900万円	7件	1,400万円	49件	11,700万円
宮城県	4件	1,300万円	35件	10,100万円	76件	18,200万円	24件	4,800万円	139件	34,400万円
福島県	13件	3,700万円	21件	6,000万円	55件	14,200万円	16件	3,200万円	105件	27,100万円

対象：2014年6月末迄

事業を通して 見えてきたこと

これまでに支援をした事業としては、被災地における雇用創出と地域ブランドづくりを目的としたトマト農園の立ち上げや、地域の情報交流の役割も兼ねた、産直施設併設のコンビニエンスストアの開店、民芸品をアレンジした新しいグッズの販売など、地域に密着した事業への支援を行ってきました。他にも、製造業からサービス業、IT産業、福祉関係と、幅広い分野への資金補助が決定しています。

起業を志す人には、乗り越えなければならないハードルがいくつもあります。お金の問題は中でも大きな一つですが、それ以外にも事業構想の具体化、営業先の開拓、会社の宣伝・PR、会社設立の登記手続、社会保険のことなど、悩みは尽きません。私たちの直接の仕事は補助金支援ですが、それにとどまらず、起業・創業者の力になれるような存在でありたいと考えています。



民芸工房 KOSEPPE 合同会社 【創業補助金第1回 第二次締切分 採択事業】

地域住民の買い物を支え、 新たなお金の流れをつくる

株式会社 岩崎商事



美しい田園風景が広がる、岩手県北上市和賀町岩崎。2013年7月、岩崎商事の及川仁二代表は、コンビニエンスストアと産直施設が併設した店舗「ヤマザキショップ北上岩崎店」をオープンさせた。

オープンのきっかけとなったのは、地域住民の生活を支えていたミニスーパーの閉店により「普段の買い物に不便になった」という声が多く聞かれるようになったこと。加えて、岩崎商事の母体である「農事組合法人岩崎農産」では、地元の農産物の販路を模索していた時期でもありました。そこで、地元の農産物を販売できる産直スペースと、日常的な買い物ができるコンビニを併設した店舗の開設に踏み切りました。

オープンから約1年、地域住民が気軽に立ち寄れる店舗としてはもちろん、観光客が岩崎地域ならではの新鮮な野菜を入手できる場所としても多くの利用者が訪れています。

商品として販売できる喜び

店舗面積の約3分の1を占める産直スペースには、野菜や果物、生花など、色とりどりの商品がずらりと並びます。これらは、産直スペースの会員となっている生産者（生産会員）が自ら価格を決め、並べているものです。「この辺りはアスパラガスが名産です。また、ニンニクとミラを掛け合わせた『行者菜』は、すぐに売り切れてしまうほどの人気商品なんですよ」と及川さん。

生産会員の多くは、家族で食べる分を家庭菜園で細々と作っている



産直スペースに、日用品や食料品が並ぶコンビニを併設。出勤時などは特に、地域住民の利用が多い。



生産者と消費者の距離が近いことも産直の魅力の一つ。商品を並べている最中に価格交渉が始まることも。

た地域住民。「しかし、自分の家庭で消費できる量は限度があります。これまでは近所の家庭に無償であげたり、せつかく手間をかけて育てながらも捨てたりしていました。それを商品として販売できるようにしたことは、購入者にも喜んでもらえるし、うれしいことですよね」と及川さん。

中には、自分が作ったものを喜んで買ってくれる人がいるということに自信をつけ、手作りのアクセサリーや民芸品の販売を始める人も。そうした新たなチャレンジの場としても広がり生まれています。

地域の中でお金が回るように

家庭菜園を持つ家が多い地域ということもあり、当初、産直の利用者としてターゲットとしていたのは、店舗近くにある温泉やスキー場へ訪れる観光客。狙い通り観光客の利用がある一方で、うれしい誤算もありました。

「オープンしてみると、自分が作っていない農産物を買いたいという地元の人もいて。知り合いから野菜を無料でもらうのは気が引けるので、値段がついていると気が楽、という声も多いですね（及川さん）。店舗のオープンによってこのように地域住民や観光客の利用があり、ものとお金の新たな流れが生まれ始めました。

及川さんが意識しているのは「地域の中でお金が回ること」。これまで母体の農事組合法人でも、地域の資源を活用することを大切にしてきました。「地元土地を借りることで地主さんにお金が落ちるし、農作業を地元の人にお願ひすることで地域の雇用につながる。産直を始めたのも、地元のを販売できる仕組みをつくりたいという気持ちがあったからです」。

岩崎地域は車社会ということもあり、買い物という週末に車で地域外の大型スーパーへ出かけ、まとめて済ませる家庭が多いという現状があります。元々あったミニスーパーが閉店したことが、ま

すますこのような流れを大きくさせました。地域外へお金が流れてしまうという問題は、岩崎地域に限ったことではなく、現在日本全国で多くの地域が抱えています。

及川さんの挑戦は、コンビニを併設することで地域住民の日常の買い物を支えると同時に、地域内における経済の活性化を目指したのもあります。

様々な交流の拠点としての役割

さらに及川さんは「商品の売り買いだけでなく、生産者同士で農業に関する情報交換ができた、観光客に地域の良さを知ってもらえたりする場としても役割を果たしたい」と希望を語ります。

コンビニを併設したことで、農業に関わる人だけでなく、日用雑貨や食料品を購入する様々な地域住民の利用が生まれています。商品を並べに来た生産者から農業の相談を受け、観光客や地域住民からは「今日は何かおすすめ野菜ある？」など、様々な質問を受ける及川さん。

「生産者・消費者の中間地点として、色々な話を聞けることはうれしいですね。これからは、地元の人や観光客がもっと気軽に訪れることができ、ここに来れば商品だけでなく何か情報を得られるし、人とつながることができる、そんな『つなぎ役』を担うことができれば」と話します。

「今、日本全体で生産から加工・販売までを行う六次産業化が注目されています。そのような中、こうして販売部分を経験できることは大きいですが、でも一番うれしいのは、地域の人から『このお店ができて良かった。ありがとう』と言われることです」と笑顔を見せる及川さん。地域の活性化に向けたチャレンジが、これからも続きます。

(2014年8月 取材)

概要	
設立年	2013年
代表者名	及川 仁一
事業名	地域発展に寄与するコミュニティビジネス企業の設立
事業地域	岩手県北上市
採択金額	200万円



母体の「岩崎農産」では、様々な農産物を生産している。「ギフト商品を開発し、店舗で販売したい」と意欲的。

イタリアントマトの生産から始める、 まちの活性化への挑戦

企業組合 スルーエイジ農園



宮城県の南東に位置する山元町で、団塊世代を中心とした企業組合「スルーエイジ農園」が、イタリアントマトの生産・加工・販売に2013年より取り組み始めました。

目指すのは、イタリアントマトを通じた地域の活性化。東日本大震災で被災し人口の流出が進む山元町において、イタリアントマトを用いた新しい地域ブランド化を図り、山元町での雇用の創出や、地域外から観光やボランティアとして訪れる交流人口を増やそうと奮闘しています。

中高年や障がいを持つ人へ 雇用の機会づくりを

同農園では、小く中玉を中心とした加工用・生食用のイタリアントマト約10種類を栽培しています。赤や黄色の、見た目にも鮮やかなトマトは濃厚な味とほどよい甘み特徴。「太陽の光と愛情をいっぱい浴びて育っているから、水っぽくなくおいしいんです」と、副理事長の横野洋卯子さんは自信に溢れた表情で話します。

イタリアントマトの栽培を考え始めたのは、2012年の春。大学では農学を専攻し、卒業後は農業には全く関係のない仕事をしてきましたが、10年ほど前から経営者の勉強会で現代の農業経営について関心を持ち始めました。そのことから、農産物の生産から加工・販売まで展開する「6次産業化」に関心があつたと言います。

震災後、中学校時代の同級生だった、理事長の千石信夫さんが住む山元町へ復興支援として訪れた際、「震災後、特に厳しい状況



イベントやインターネットでの販売や、加工品の販売などにも積極的に取り組む。



鮮やかに実をつけた、イタリアントマト。減農薬・有機肥料を使い、環境負荷の少ない農業に取り組んでいる。

に置かれている中高年や、障がいを持つ人へより良い仕事環境をつくること、震災復興の一助になるのではないかと考え、それまで培った知識を生かした取り組みが始まりました。

世代を越え、協力し合うことへの挑戦

イタリアントマトに決めたのは「直感」という洋卯子さん。「毎日台所に立つ身として、おいしいトマトが食べたいな、と。男性たちはいまいちピンときてなかったみたいだけど」と明るく笑います。

そして、千石さんの所有する畑で試験的に栽培を始めたのが2012年5月。仙台在住の仲間を声をかけたところ、「一緒にチャレンジしたい」と団塊世代を中心としたメンバー10人が手をあげました。夏にはみずみずしい実が付き、男性メンバーたちも「これはいいね」と将来性を感じたと言います。

その後、組織化して本格的に取り組むため、2013年5月、企業組合「スルーエイジ農園」を設立。「スルーエイジ」とは、「世代を超えた」という意味で、その名の通り、20〜70代の幅広い年代のスタッフが関わっています。「ピラミッドのような組織体系ではなく、世代をこえて、フラットに理解・協力し合うことを大切にしています。一つの挑戦でもありますよね」（洋卯子さん）。

消費者目線で味と品質を追求

「実は、栽培に関してはメンバー全員、全くの素人でした」という洋卯子さん。しかし、「素人だからこそ消費者目線に立つて、農薬をなるべく使わず自然に近い状態の栽培で、おいしいトマトをつくらうという思いを追求できた」とも。

トマトは安定して効率よく収穫できる水耕栽培が主流ですが、同園ではより品質が良いと言われている土耕栽培に挑戦しています。「土耕栽培は土の状態や天候に左右されるため手間はかかり

ますが、味と品質を追求していきたいんです」と、専務理事の横野壮俊さんは力強く語ります。

収穫のシーズンになると、早速仙台市内のレストランやホテルでの取り扱いが始まりました。「味にうるさいと言われる飲食店も、『この味だったら』と使ってくれることになって。自信につながりました」。

順調に進んでいるかに見えた2013年の秋。トマトが病気にかかり、次々に枯れるという事態が同園を襲いました。苦しい状況を、洋卯子さんは次のように振り返ります。「必死で駆け回りましたが、原因が分からなくて。でも、絶対あきらめなかったのは、たくさんの人の協力があって、夢が詰まっていたから。山元町の人たちと、絶対に成功させたい、という強い思いがありました」。その後原因を突き止めることができ、収穫量は予想を大幅に下回りましたが、何とか最後まで収穫を続けることができました。

食を通して、まちの活性化を

2年目の収穫を迎え、食材にこだわりを持つ飲食店や山元町の直売所など、取り扱いを決める店舗が徐々に増えています。また、ジュースなど加工品の販売や、インターネットでの販売も始め、「忙しい毎日」と壮俊さん。さらに、障がいを持つ若者の自立に向けた就労体験を行ったり、親子で参加できるトマト摘み取り体験の開催をしたりと、様々なつながりがづくりに積極的です。

同園が目指すのは、畑だけでなくレストラン・加工所・直売所・宿泊施設などを併設した、人々が交流できる拠点としての「観光農園」。洋卯子さんは「食は、世代や立場、地域を越える世界共通言語。まちの活性化のために、行政に頼るだけでなく、私たちもできる限り、人を呼びこむ仕掛けづくりをしていきたい」と、希望に満ちた表情で語りました。

(2014年8月 取材)



スルーエイジ農園が描く「山元観光農園」のイメージ図。町内外から人々が集まり交流できる拠点を目指している。

概要	
設立年	2013年
代表者名	千石 信夫
事業名	被災地山元町における職場の創出と障害者の就労支援のためのトマトプロジェクトの実施
事業地域	宮城県亘理町
採択金額	200万円

困難にも笑顔で起き上がる、 復興の可愛いシンボル

民芸工房KOSEPPE 合同会社



福島県喜多方市内の美容室に併設された「民芸工房KOSEPPE」。美容師でもある須藤正彦さんがこの工房でつくっているのは、会津地方の民芸品である起き上がり小法師風の、フラガール人形。いわき市にある「スバリゾートハワイアンズ」で、「起き上がりフラ」という名前前で販売されています。

1966年に開業したスバリゾートハワイアンズは、かつてこの地域の主力産業だった炭鉱が廃れた時、地域の再生を図る目的でつくられた大型リゾート施設です。しかし、東日本大震災でいわき市も大きな被害を受け、施設は再開の見込みが立たないまま休業せざるを得ませんでした。その休業期間中、フラガールたちによる全国巡業キャンペーンが行われました。開業前年のキャンペーン以来、実に46年ぶりの全国巡業でした。

この巡業では、東北各県の被災地、長野県北部大震災の被災地、県内外の避難所、炭鉱ゆかりの土地など、約5カ月間で120カ所以上を巡りました。そのフラガールのなかに、須藤さんの娘さんもいたのです。

「がんばれよ」の想いを込めて

実は、フラガールたちが全国巡業に出ている最中、須藤さんの父親が突然亡くなりました。そのことを誰よりも悲しんだのは、おじいちゃん子として育った娘さん。悲しみに耐え懸命に全国巡業を続ける娘のこと、そして自らが被災しながらも踊り続ける娘の仲間であるフラガールたちを応援したいという想いから、須藤さんは「起き



現在は生産が追いつかずストップしているが、注文を受けて似顔小法師をつくることも。写真は娘さんがモデル。

き上がりフラ」をつくらうと考えました。

「当時は、施設が再開するのかわからない状態。家を流されたフラガールもいて、笑顔で踊るのは大変だっただろうと思います。その状況は今も変わりません。娘には照れくさくて言葉では伝えられませんが、復興の象徴でもある彼女たちに、「がんばれよ」というエールを込めてつくったのです」と須藤さん。

元々商品として販売しようとは考えていませんでしたが、知人などに配っているうちに話題となり、スバリゾートハワイアンズから、再開の記念に配布したいとの依頼がきました。その後、「販売してほしい」というお客さんからの要望もあり、須藤さんは「起き上がりフラ」づくりに専念するようになったのです。

何度でも起き上がる、震災復興の象徴

「起き上がりフラ」は、木型から和紙貼りなどほとんどの工程が手作業。その細部にまで、復興への想いが込められています。例えば、福島県は3つの地方から成り立っているとされますが、「起き上がりフラ」は、浜通り地方のフラガールをモチーフに、中通り地方伝統の手漉きの上川崎和紙を使い、会津地方の民芸品の起き上がり小法師風に仕立てています。「福島すべての震災復興を象徴させたかった」と須藤さんは話します。

さらに、どの角度からでもきちんと起き上がるようにと、和紙と土台となる粘土とのバランスを何度も確かめながら、慎重に組み立てて作業を行っています。「360度、どんな困難にも負けないで起き上がってほしい。表情も笑顔にこだわっているんです」。

しかし、絵付けの時の顔料の重さなど、さまざまなことでバランスは変わってしまうそうです。ときには、ある角度だけ起き上がらないものも出てしまうそうです。そのため、商品には「うまく起き上がらない場合はアロハな気持ちでお力添えをお願いします」というユーモアたっぷりなメッセージが添えてあります。

「起き上がりフラ」を仕事づくりに

「試行錯誤しながらつくってきたので、最初と比べるとかなり形も変わりました。1年前のものとも違う。以前は和紙に直接色を塗っていましたが、表面を滑らかにするために、今は「度顔料を塗っています」。

改良する度に工程が増え、今では完成までに40工程以上もかかるそう。「つくるのに時間がかかってしまう」と苦笑いする須藤さんですが、お客さんのことを考えると、つい手間を重ねてしまうのだといいます。

利益のことなど考えず、たった一人で「起き上がりフラ」をつくってきた須藤さんですが、生産が追いつかない時もあり、思いを伝えていくためには事業として軌道にのせる必要も感じています。そのため、新商品開発にも取り組む他、工房で販売する準備も進めています。軌道にのればづくり手も増やし、育児中の母親や高齢者、浜通り地方の人の仕事にもしていきたいというのが、今の須藤さんの目標です。つくり手が変わっても質が保てるようにと、難しい顔の絵付けは、手書きしたものをプリントして貼る方法に変えました。

「でも、少しずつパターンを変えたり、手書きで表情を足したりしています。やっぱり自分の好きな顔を探るのが楽しいと思うから」と須藤さん。お客さんのために、ひと工夫を加えることを忘れません。

風化させないために、伝え続けたい

「震災直後と比べると、3年経って販売数はぐんと落ちました。震災のことも、時間が経てば風化してしまう気がして心配です。福島島の復興はまだ長い道のりですし、今でも大変な思いをしている人たちがたくさんいます。起き上がりフラを通じて、「被災しているいろいろな思いを抱えているフラガールたちも、笑顔で頑張っているよ」というメッセージを伝え続けていきたい。そのためには、この先何があってもつづけていこうと決意しています」 (2014年8月 取材)



美容室に併設された工房。「KOSEPPE (こせっぺ)」とは方言で、「つくらう」「乗り越えよう」という意味をもつ。

概要	
設立年	2013年
代表者名	須藤 正彦
事業名	オリジナル民芸品「起き上がりフラガール」の新商品開発および展開
事業地域	福島県喜多方市
採択金額	200万円

三菱重工 みやぎ・ふくしまミニファンドについて

事業概要

東日本大震災直後から復興支援に取り組んできた三菱重工業株式会社からの資金提供を受け、被災地で行われている、市民主体の復興への取り組みに対する支援として設立されました。被災地における「暮らしとつながり」に焦点をあて、仮設住宅に居住する住民同士、あるいは地域住民とのつながりづくりや、雇用の機会につながる仕事づくりの活動に対して助成しました。



応募状況

	2012年度 助成	2013年度 助成	合計
申請件数	12件	24件	36件
申請金額	95万円	215万円	310万円
助成決定件数	12件	23件	35件
助成決定金額	95万円	205万円	300万円

対象：2014年6月末迄。支援事業一覧はP.59～

県別助成実績

	2012年度 助成		2013年度 助成		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
宮城県	12件	95万円	17件	150万円	29件	245万円
福島県			6件	55万円	6件	55万円

対象：2014年6月末迄

事業を通して見えてきたこと

津波被害を受けた沿岸部では、土地のかさ上げ工事や災害公営住宅の建設など、ハード面の復旧が進む一方、コミュニティの維持や生活の質の向上といったソフト面では、様々な課題が表面化しています。新たな土地への移転に伴うコミュニティ形成、高齢化が進む地域での生きがいと雇用創出のための仕事づくりなど、本事業で焦点をあてている「暮らしとつながり」を充実させるための取り組みが必要な状況が続いています。

① 手仕事仲間同士のスキルアップ交流会

特定非営利活動法人 とめタウンネット

仮設住宅などで生活する高齢の女性の引きこもりや、孤立を防止するための対策として始まった、被災地手仕事プロジェクト「編んだもんだら」。宮城県登米市において、県内4拠点の編み手及びスタッフが一堂に会し、編み手同士の交流と、スキルアップのための交流会を実施しました。技術の向上だけでなく、各地の女性たちの生活環境や課題などが共有される機会にもなりました。



概要	
事業名	「編んだもんだら」4拠点
事業地域	宮城県登米市
事業期間	2013年12月20日
助成金額	10万円

② 仮設住宅団地での鍋まつりの開催

平成の森アート実行委員会

宮城県南三陸町にある「平成の森仮設住宅団地」において、鍋まつりを開催。仮設住宅の住民が、6チームに分かれて自慢の鍋を調理し、約300杯を販売しました。申請団体の声がけに、仮設住宅の住民が自主的にグループをつくり、鍋の種類を決定するなど、住民の主体性を引き出すことができ、継続的な取り組みにつなげることができました。



概要	
事業名	いんでねが鍋まつりの開催
事業地域	宮城県南三陸町
事業期間	2014年1月18日
助成金額	10万円



(特活) 勿来まちづくりサポートセンター
[三菱重工 みやぎ・ふくしまミニファンド 2013年度支援事業]



寄木契約会
[三菱重工 みやぎ・ふくしまミニファンド 2013年度支援事業]

善光寺出開帳両国回向院復幸支縁基金について

事業概要

2013年4月27日から5月19日に東京都墨田区両国の回向院にて、東日本大震災の復興支援を目的として行われた「善光寺出開帳両国回向院」の収益の一部を原資として設立されました。本基金では、被災された方々が一日でも早く心の平穏を取り戻すことができるよう、大きな悲しみや傷を負った心のケアや、社会的に弱い立場の方々の避難生活を支える事業などに助成しました。

応募状況

	件数
申請件数	35件
申請金額	1,631万円
助成決定件数	15件
助成決定金額	630万円

対象：2014年6月末迄。支援事業一覧はP.60～

県別助成実績

	件数	金額
岩手県	3件	95万円
宮城県	9件	415万円
福島県	3件	120万円

対象：2014年6月末迄

事業を通して見えてきたこと

傾聴サロンや電話相談、アートセラピーなど心のケアを目的とした活動により、対象者から「心の中にある思いを吐き出すことができた」「ストレス解消につながった」という声が聞かれ、困難を抱え孤立している人たちに寄り添う活動が行われました。一方で、避難生活が長期化するにつれ、体力的・精神的に弱くなつていく人もみられ、震災前に暮らしていた場所に帰れる日まで活動を継続し支えてほしいという声も寄せられています。

出張ボランティア相談員養成講座

公益社団法人 日本駆け込み寺仙台支部

仮設住宅や被災地に出向き、困りごとの相談に応じる「ボランティア相談員」の養成講座を2回(各6講)開講。講座の受講者が職員とともに仮設住宅を訪問し、被災した方々の悩みに寄り添い、適切な態度で耳を傾けることにより、「安心した」「気持ち軽くなった」「今後に希望が持った」などの感想が聞かれ、相談者の心のケアにつながりました。



概要	
事業名	出張駆け込み寺に係る相談員養成事業
事業地域	宮城県仙台市
事業期間	2014年4月1日～2014年9月30日
助成金額	50万円

生と死を学ぶワークショップの開催

特定非営利活動法人 仙台グリーンケア研究会

被災地では人の死を経験した児童・生徒が多く、教育の現場でも教師が「生と死」の問題に向き合う必要性が高まっています。こうした状況を受け、教育関係者を対象に、生と死について学ぶワークショップを2回開催、児童・生徒にどのような寄り添い、支えるのかを考えました。参加者には「生と死について考えることの意義に気づいた」という意識の変化が見られました。



概要	
事業名	教育の現場で生と死に向き合うためのワークショップ
事業地域	宮城県仙台市
事業期間	2014年4月1日～2014年9月30日
助成金額	40万円



(特活) つながっぺ南相馬
【善光寺出開帳両国回向院復幸支縁基金 支援事業】



読書ボランティアおはなしころりん
【善光寺出開帳両国回向院復幸支縁基金 支援事業】

支援事業一覧 (2014年6月末迄)

No.	団体名	事業名	事業地域	助成額
■ プログラムB:復興支援事業に取り組む現地NPOの組織基盤強化のための助成				
1	申請団体 高田大隅ついの丘商店街 協働団体 (特活)レスバイトハウス・ハンズ	仮設商店街連携による交流のまちづくり推進事業	岩手県陸前高田市	370
ローズファンド 第四期 対象支援期間:2014年1月1日~2014年12月31日				
■ プログラムA:復興支援事業助成				
1	(特活)いわて地域づくり支援センター	大船渡市三陸町崎浜地区の自分たちで策定・実現する復興計画事業および被災者の生活再建事業	岩手県大船渡市	250
2	あゆっこ応援団	陸前高田市における子どもの遊び場運営事業 ~まきばっこで遊んで、まきばっこハウスで寛いで!!~	岩手県陸前高田市	143
3	(特活)みどり自然を育む会	大槌町桜木地区環境美化とコミュニティ活性化事業	岩手県大槌町	150
4	(社福)山元町社会福祉協議会 山元町共同作業所(工房地球村)	アート&カフェによる障がい者の町づくり参加事業	宮城県山元町	250
5	(公社)シャンティ国際ボランティア会 気仙沼事務所	地元人材育成事業	宮城県気仙沼市	242
6	(特活)子育て支援コミュニティチママン	防災・減災はピアサポートから。 ノーマライゼーション理念による地域社会復興支援事業	福島県郡山市	248
7	(特活)3.11被災者を支援する いわき連絡協議会	被災者支援を10年継続できる組織基盤強化事業	福島県いわき市	248
■ プログラムB:復興支援事業に取り組む現地NPOの組織基盤強化のための助成				
1	申請団体 高田大隅ついの丘商店街 協働団体 (特活)レスバイトハウス・ハンズ	事業者連携による交流と新しいまちづくり推進事業	岩手県陸前高田市	370
ローズファンド 第五期 対象支援期間:2014年7月1日~2015年6月30日				
■ プログラムA:復興支援事業助成				
1	(特活)いわて発達障害サポートセンター ええ町づくり隊	地域における社会適応支援	岩手県陸前高田市	400
2	(特活)「居場所」創造プロジェクト	「ハネウェル居場所ハウス」高齢者・被災者の地域交流・生活支援事業	岩手県大船渡市	400
3	(特活)心の架け橋いわて	予防的啓発教育による心の健康基盤作りと現地支援者育成	岩手県全域	350
4	(一社)ワタマスマイル	被災女性の就労支援と被災高齢者への配食サービス・見守り支援事業	宮城県石巻市	400
5	(一社)復興みなさん会	南三陸構ものがたり 子どももお年寄りも一緒に復興まちづくり	宮城県南三陸町	300
6	(一社)WATALIS	亘理町における地元女性の就労支援を行う組織の基盤強化	宮城県亘理町	150
7	(特活)昭和横丁	川内村応急仮設住宅における住民支えあい支援事業	福島県郡山市、川内村	378

セーブ・ザ・チルドレン×さなぶりファンド こども☆はぐくみファンド				
こども☆はぐくみファンド 2011年度第1期短期支援事業 対象支援期間:2011年12月1日~2012年2月29日				
1	いわきおやこ劇場	プロジェクトyou	福島県いわき市	30
2	(一社)Autism Future Creation Project ふれいん・ゆに〜くす	南三陸町での“ややくしき”をもつ子どもたちへの療育の場づくりとペアレントケア	宮城県南三陸町	30
こども☆はぐくみファンド 2011年度第2期短期支援事業 対象支援期間:2012年1月1日~2012年3月31日				
1	気仙地域子育て支援ネットワークWa-I (おやこの広場きらりんぎっず)	陸前高田市での餅つきプロジェクト	岩手県陸前高田市	30
2	三春おやこ劇場	“すてきな三にんぐみ”鑑賞会	福島県三春町	29.8
3	(一社)福島浜通震災被災地広域連携 ネットワーク	子ども運動支援プロジェクト	福島県内浜通り	29.6
4	(特活)アフタースクールばるけ	あみーごクラブ	宮城県仙台市	30
5	(特活)ワンダーポケット	東日本大震災被災地の子どもたちへの支援や兄弟姉妹の交流会開催等	宮城県仙台市	30
6	アクティブルーム伊達っ子実行委員会	子どもの居場所作り事業	宮城県気仙沼市小泉地区、 南三陸町	30
7	(特活)アスイク	会員制学習支援センター19 Tsutsujigaokaの立ち上げ	宮城県仙台市	30
8	(特活)まきばリースクール	草木染ワークショップ	宮城県栗原市	22
9	「森のようちえん東北交流フォーラムin みやぎ栗原」実行委員会	森のようちえん東北交流フォーラムinみやぎ栗原	宮城県栗原市	30
10	(特活)輝らら会	満点の星☆開設事業	宮城県大崎市	30
11	(特活)ハイビスカス [現:(特活)和]	石巻市における子育て環境支援事業	宮城県石巻市	30
こども☆はぐくみファンド 2011年継続支援事業 対象支援期間:2012年1月1日~2012年12月31日				
1	にじいろクレヨン [現:(特活)にじいろクレヨン]	被災地の子ども達の遊びを通じた居場所づくり事業	宮城県石巻市、東松島市	461
2	(特活)未来図書館	一人ひとりの生き方としてのキャリアを考える学び事業の実施	岩手県宮古市、大槌町 他	377

No.	団体名	事業名	事業地域	助成額
ジャパン・ソサエティ 東日本大震災復興基金(ローズファンド)				
ローズファンド 第一期 対象支援期間:2011年12月1日~2012年6月31日				
■ プログラムA:復興支援事業助成				
1	(特活)いわて地域づくり支援センター	大船渡市三陸町崎浜地区の自分たちでつくる復興計画の策定及び復興の実現による集落コミュニティの強化事業	岩手県大船渡市	150
2	(特活)レスバイトハウス・ハンズ	陸前高田市民活動センター設立準備事業	岩手県陸前高田市	150
3	南町柏崎青年会	気仙沼復興商店街の立ち上げ支援と商店街を活用した地域活性化プログラム	宮城県気仙沼市	150
4	(特活)寺子屋方丈舎	会津地方における 冬 仮設住宅支援	福島県会津若松市及び 会津美里町	150
■ プログラムB:復興支援事業における協働促進のための助成				
1	申請団体 協働団体 宮古災害復興支援活動チームM.A.D (社福)宮古市社会福祉協議会	被災地区残存世帯の越冬支援とコミュニティ再生事業	岩手県宮古市	200
2	申請団体 協働団体 やまもと復興応援センター (特活)ADRA Japan	仮設住民の自立を応援する支援事業~心をひとつに…~	宮城県山元町	200
3	申請団体 協働団体 アートリバイバルコネクション東北 (特活)STスポット横浜	高齢者と地元アーティストの学び合い事業	宮城県東松島市	197
4	申請団体 協働団体 RQ被災地女性支援センター [現:(特活)ウィメンズアイ] (特活)都市デザインワークス	手仕事を通じた地域と被災者のための新しいコミュニティ形成支援	宮城県気仙沼市、 南三陸町、石巻市、登米市	200
ローズファンド 第二期 対象支援期間:2012年5月1日~2012年12月31日				
■ プログラムA:復興支援事業助成				
1	仙台・青葉まつり協賛会	震災被災者仮設住宅すずめ踊り活動事業	宮城県仙台市	150
2	(特活)ふうどばんく東北AGAIN	フードバンクによる中長期的生活困窮者支援体制の基盤整備事業	宮城県全域	150
3	NPOくりはらリンク [現:NPOくりはら]	仮設住宅団地における高齢者のための買い物代行サービス	宮城県南三陸町、石巻市	150
4	宮城大学中田千彦研究室「a book for our future 3.11」デザインチーム	南三陸町戸倉地区まちづくり支援事業	宮城県南三陸町	150
5	(一社)ふくしま連携復興センター	ふくしま若手復興人材育成プロジェクト	福島県福島市、郡山市	150
6	(特活)福島ライフアイド	福島を主とした被災地域とそれ以外の地域を結ぶフリーペーパー事業	福島県、山形県、新潟県	139
7	Link with ふくしま	“ふくしまフューチャーセンター”運営事業	福島県、東京都	142
8	フクシマの子どもの未来を守る家	放射能汚染地域に暮らす「母子の一時疎開と保養」引き受け活動	山形県鶴岡市	135
9	HAPPY 愛 LANDS	山形県米沢市に避難している母子による合唱サークル活動	山形県米沢市	46
10	NPOりとの福島避難者支援ネットワーク	ほっこりつながるプロジェクト~山形市内の母子避難者同士の生活支援事業~	山形県山形市	150
■ プログラムB:復興支援事業に取り組む現地NPOの組織基盤強化のための助成				
1	申請団体 協働団体 (特活)亘理いちごっこ (特活)NPOファミリーカウンセリング サービス池袋オフィス	亘理いちごっこお話し隊活動	宮城県亘理町	200
ローズファンド 第三期 対象支援期間:2013年1月1日から2013年12月31日				
■ プログラムA:復興支援事業助成				
1	(特活)いわて地域づくり支援センター	大船渡市三陸町崎浜地区の自分たちで策定・実現する復興計画事業および被災者の生活再建事業	岩手県大船渡市	250
2	あゆっこ応援団	陸前高田市における子どもの遊び場運営事業 ~まきばっこで遊んで、まきばっこハウスで寛いで!!~	岩手県陸前高田市	250
3	(特活)みどり自然を育む会	大槌町桜木地区 地域環境美化と自主防災組織育成事業	岩手県大槌町	161
4	(社福)山元町社会福祉協議会 山元町共同作業所(工房地球村)	アートとコミュニティスペースによる障がい者の地域復興参加事業	宮城県山元町	250
5	(一社)ふらっとーはく	地域住民と若者の自立とチャレンジを促進する地域基盤創出プロジェクト	宮城県亘理町、山元町、 福島県新地町	233
6	(公社)シャンティ国際ボランティア会 気仙沼事務所	「つながる人の和 復興プロジェクト気仙沼」地元人材育成事業	宮城県気仙沼市	248
7	(一社)ISHINOMAKI2.0	本イベントとコミュニティスペースによる市街地活性化支援事業	宮城県石巻市	250
8	(特活)子育て支援コミュニティチママン	防災・減災はピアサポートから~子育てノーマライゼーション理念による 地域社会復興支援事業	福島県郡山市	245
9	(特活)いわき自立生活センター	被災者支援を10年継続できるNPO組織基盤強化事業	福島県いわき市	250

No.	団体名	事業名	事業地域	助成額
9	登米市の医療を考える会	こどもの救急ガイドブック(登米市版)の作成	宮城県登米市	50
10	こどものにわ	二本松放課後あそび場プロジェクト	福島県二本松市	150
子ども☆はぐくみファンド 2012年継続支援事業<第1期・2年次><第3期・1年次> 対象支援期間:2013年1月1日~2013年12月31日				
1	(特活)にいろクレヨン	子どもの居場所づくり事業	宮城県石巻市	500
2	(特活)未来図書館	一人ひとりの生き方としてのキャリアを考える学び事業	岩手県全域	500
3	(特活)うれし野こども図書室	広げよう!子どもと読書の輪in被災地	岩手県大船渡市、 陸前高田市	400
4	(特活)ロージーベル	少年の自立更生を支援するための人材育成・ネットワーク構築事業	宮城県名取市	436
5	(一社)マザー・ウイング	震災後の乳幼児家庭支援活動	宮城県仙台市	378
6	寺谷振興会 [現:気仙沼あそびばーの会]	気仙沼あそびばー「気仙沼に子どもの遊び場を!」	宮城県気仙沼市	379
子ども☆はぐくみファンド 2013年第3期単年度支援事業 対象支援期間:2013年4月1日~2014年3月31日				
1	(特活)母と子の虹の架け橋	母と子の笑顔を広げる「ママハウス」[虹の家]	岩手県釜石市	250
2	(一社)H.u.G. plat逸野	馬を核にした滞在型ホースアシステッド セラピーサービス事業	岩手県逸野市	250
3	ピコせんサポーター	こどもがつくるまち「Piccoliせんだい2013」	宮城県仙台市	250
4	(特活)みやぎ子ども養育支援の会	児童養育プログラム開発事業	宮城県石巻市	250
5	アリエッティの会	アリエッティのひろばプロジェクト	宮城県石巻市	250
6	おはようシアター	交流の場をつくる巡回シアター事業	岩手県・宮城県・福島県	235
7	アレルギーの子を持つ親の会 あつるんるんくらぶ	アレルギーをもつ子ども家庭への環境整備事業	宮城県仙台市	250
8	わしん倶楽部	防災・減災ジュニアリーダー育成及びゲーム作成	宮城県仙台市	212
9	(特活)冒険あそび場- せんだいみやぎネットワーク	乳幼児の「遊び力」を育む~被災地での取り組み	宮城県仙台市	250
10	ハート&アート空間ピーアイ	ふくしま ほっこり カフェ	宮城県仙台市	175
11	CAPみやぎ	虐待予防とエンパワメント事業	宮城県全域	250
12	(特活)アスイク	経済的に余裕のない子どもが通えるまなび場の展開	岩手県・宮城県・福島県	250
13	(特活)寺子屋方丈舎	学童保育人材育成事業	福島県会津若松市	249
14	サンバ&アートグループOVO NOVO	サンバ&アートグループOVO NOVO プロジェクト2013	福島県いわき市	250
15	(特活)子育て支援コミュニティチママン	のびのびふくしまっこ! 子育て支援リ・スタート事業	福島県郡山市	237
16	(特活)Lotus	子どもと楽しむ子育てカフェカルチャー	福島県会津若松市	250
17	(特活)本宮いどばた会	子育てひろばでつなげよう希望の輪	福島県本宮市	94
18	NPO Earth Angels	二本松ママとこどもの生活応援事業	福島県二本松市	218
子ども☆はぐくみファンド 2013年度継続支援事業<第2期・2年次> 対象支援期間:2013年7月1日~2014年6月30日				
1	(特活)こそだてシップ	組織運営体制強化と、こそだてシップママサロンと巡回訪問の事業拡大	岩手県大船渡市	500
2	(特活)和	石巻市における一時保育事業と災害時の子育て支援のための組織作り事業	宮城県石巻市	500
3	(特活)アフタースクールばるけ	障がい児とその家族の地域生活支援を強化するための包括的な事業	宮城県仙台市	325
4	(特活)まごころサービス福島センター	連合体としての事業の方向性等の検討と組織基盤強化事業	福島県福島市	500
5	チャイルドラインこおりやま	チャイルドライン活動推進、及び基盤整備事業	福島県郡山市	500
子ども☆はぐくみファンド 2013年度継続支援事業<第4期・1年次> 対象支援期間:2013年10月1日~2014年9月30日				
1	(一社)SAVE TAKATA	気仙☆若者 まちづくりIT塾	岩手県陸前高田市、 大船渡市	259
2	(特活)底上げ	気仙沼こども底上げプロジェクト	宮城県気仙沼市、 南三陸町	499
3	みやぎくりはらこどもねっとわーく	子どもの居場所づくり がんばろうくりはら こどもあそびランド	宮城県栗原市	500
4	子どものための石巻市民会議	子どものまちいしのまきとプレーパーク事業	宮城県石巻市	250
5	こども∞感ばにー	あそび場が子どもの心と身体の居場所を作る事業と組織の基盤強化	宮城県石巻市	500
6	(一社)キッズ・メディア・ステーション	石巻日日こども新聞	宮城県石巻市	500
7	(特活)子どもの村東北	子どもの村東北建設準備事業	宮城県仙台市	500

No.	団体名	事業名	事業地域	助成額
子ども☆はぐくみファンド 2012年第1期単年度支援事業 対象支援期間:2012年5月1日~2013年4月30日				
1	気仙沼おとひめ会	ひなたぼっこ運営事業	宮城県気仙沼市	115
2	ハート&アート空間ピーアイ	ふくしまほっこりカフェ	宮城県仙台市、 柴田郡川崎町青根温泉	150
3	(特活)あるきんぐクラブネイチャーセンター	キャンプでつながり事業☆	福島県会津地域	150
4	(特活)まごころサービス福島センター	子ども支援事業・組織強化プロジェクト	福島県福島市、伊達市、 郡山市、須賀川市	150
5	こおりやまチャイルドラインをつくる会 [現:チャイルドラインこおりやま]	福島県初のチャイルドライン開設	福島県を中心に日本全国	150
6	(特活)ほっとスペースR	想いを語り共有し、伝えていこう	福島県郡山市、須賀川市、 南相馬市、北海道砂川市	150
7	ピコせんサポーター	こどもがつくるまち「Piccoliせんだい」~Miyagino~	宮城県仙台市	150
8	(一社)マザー・ウイング	震災後の乳幼児家庭支援活動	宮城県仙台市	100
9	サンバ&アートグループ OVO NOVO	サンバ&アートグループOVO NOVOプロジェクト	福島県いわき市	150
10	助産師有志の会 [現:(特活)こそだてシップ]	ママ&ベビーサロン「子育てシップ」	岩手県大船渡市、 陸前高田市、住田町	150
11	(特活)子育て支援グループこころ	こどものあそびプロデュース	福島県二本松市	137
12	(特活)冒険あそび場- せんだいみやぎネットワーク	乳幼児の「遊び力」を育む~被災地での取り組み	宮城県仙台市	123
13	しおクローバー	塩釜ママの被災体験集発行と遺族交流会実施	宮城県塩竈市	96
14	(特活)バンダハウスを育てる会	バンダハウスの円滑な管理運営事業	福島県福島市	150
15	(特活)ミュージズの夢	障がいをもつ子どもたちの芸術活動~設立10周年記念コンサートに向けて	宮城県仙台市	150
16	(特活)あぶくまエスネット	「ぼんた山元気楽校」活動	福島県東白川郡鮫川村	150
17	(特活)子育て支援ベビースマイル石巻	妊産婦子育てコミュニティカフェ	宮城県石巻市	150
18	こどもとあゆむネットワーク	アートサロン	宮城県全域	123
子ども☆はぐくみファンド 2012年第2期継続支援事業<第2期・1年次> 対象支援期間:2012年7月1日~2013年6月30日				
1	助産師有志の会 [現:(特活)こそだてシップ]	組織運営体制強化とママ&ベビーサロンの事業拡大	岩手県大船渡市、 陸前高田市、住田町	385
2	こおりやまチャイルドラインをつくる会 [現:チャイルドラインこおりやま]	チャイルドライン事務局の運営基盤強化と受け手、支え手の育成事業	福島県を中心に日本全国	351
3	(特活)アフタースクールばるけ	障がい児とその家族の地域生活支援を強化するための包括的な事業	宮城県仙台市	379
4	(特活)ハイビスカス [現:(特活)和]	石巻市における一時保育事業の運営と基盤強化事業	宮城県石巻市	496
5	(特活)まごころサービス福島センター	緊サボ5周年記念別枠・組織強化プロジェクト	福島県ほぼ全域	256
子ども☆はぐくみファンド 2012年第3期短期支援事業 対象支援期間:2012年10月1日~2012年12月31日				
1	みやぎくりはらこどもねっとわーく	こどものあそびば あそびー	宮城県栗原市	30
2	マザーリンク・ジャパン [現:(特活)マザーリンク・ジャパン]	ベビーマッサージ講習+楽チン子育て講演+ママ交流会	岩手県・宮城県	30
3	福島南子ども劇場	低学年部第110回例会	福島県福島市	30
4	(特活)グッドニュース・プロジェクト	「放課後歌声広場」及び「歌声サロン」の実施	宮城県石巻市	30
5	おはようシアター	子どもが主体的に関わる演劇プログラム 創造のための組織基盤強化事業	岩手県・宮城県・福島県	30
6	(特活)みやぎ子ども養育支援の会	障害児等を対象とした子育て支援事業「にこにこプロジェクト」開設事業	宮城県石巻市	30
7	(特活)底上げ	気仙沼こどもまちづくりプロジェクト	宮城県気仙沼市	30
子ども☆はぐくみファンド 2012年第2期単年度支援事業 対象支援期間:2013年1月1日~2013年12月31日				
1	(特活)ゆうもあ・ねっと	交流☆YOU MORE事業	岩手県紫波郡	132
2	マザーリンク・ジャパン [現:(特活)マザーリンク・ジャパン]	ベビーマッサージ講習+子育て講演+ママ交流会を開催 被災したシングルママのための託児サービス付ジャズライブ+ママ交流会	岩手県、宮城県	70
3	(特活)底上げ	気仙沼 続・こどもまちづくりプロジェクト	宮城県気仙沼市	150
4	創作農家こすすす組合 [現:希望と笑顔のこすすす農園]	子どもに笑顔と活気を取り戻す「遊びのステージ」を!!	岩手県釜石市	150
5	(特活)まきばリースクール	心の居場所づくり	宮城県栗原市	150
6	(特活)ふよう土2100	障がい児のためのサポート事業	福島県いわき市	150
7	(一社)Live on	死別経験をした子どもへの「学びとケア」	宮城県石巻市、仙台市	150
8	みやぎくりはらこどもねっとわーく	がんばろうくりはら こどもランド	宮城県栗原市	150

No.	団体名	事業名	事業地域	助成額
13	(特活)やまがた育児サークルランド	長期避難家庭支援の子育てひろば事業	山形県山形市	488
14	(特活)臨床心理オフィスBeサポート	静岡県東部地域へ避難している子どもへのこころのサポート事業	静岡県東部地域	250
15	とっとり震災支援連絡協議会	震災避難者総合支援事業	鳥取県全域	500
サントリー・SCJ フクシマ スム プロジェクト 福島子ども支援NPO助成 第二期 対象支援期間:2014年1月1日~2014年12月31日				
1	(特活)福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会	福島県の児童養護施設の健康	福島県全域	310
2	(特活)郡山ベップ子育てネットワーク	遊びを通じた子育て環境づくり	福島県郡山市	233
3	(特活)いわき自立生活センター	子どもの放課後活動への支援事業	福島県いわき市	277
4	(特活)子ども総合研究所	「お母さんみたいになつなご」づくりプロジェクト	山形県村山地域	225
5	人の輪ネット	福島ハートフルCafé	東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県	194
6	(一財)名古屋YWCA	シンチ・ハート・プロジェクト テレビ電話による子どもたちの心のサポート活動	福島県新地町、愛知県名古屋	240
7	(公財)福島県国際交流協会	福島に暮らす外国の子どもサポート	福島県全域	500
8	(特活)放射線衛生学研究所	市民科学者養成講座・キュリー学園～放射線・放射能とどう向き合うか～	福島県全域、新潟県、栃木県など福島県周辺地域	255
9	(特活)MMサポートセンター	原発避難発達障がい児への支援・相談	福島県全域	800
10	(特活)いわきNPOセンター	親子の遊び広場「とことん広場」	福島県いわき市	460
11	チャイルドラインふくしま	チャイルドライン	福島県全域	305
12	(特活)ビーンズふくしま	うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト	福島県郡山市	470
13	ARTS for HOPE	子どもの元気・街の元気応援プロジェクト アートで街を塗り変えよう	福島県全域	247
14	(特活)3.11子ども文庫	子ども文庫にじ事業	福島県相馬市	343
15	こどものにわ	ふくしまグリーンキャンパス	福島県二本松市	406
16	子どもが自然と遊ぶ楽校ネット	ふくしまの子ども元気応援プログラム	福島県全域	470
17	(特活)Lotus	大人も子供もワクワク屋内トトロの森	福島県会津若松市	766
18	(特活)子ども支援フェイスブックプロジェクト	子ども未来創生計画	福島県、山形県、宮城県全域	285
19	(特活)やまがた育児サークルランド	長期避難家庭支援の子育てひろば事業	山形県山形市	651
20	NPOりとする福島避難者支援ネットワーク	母親と子どもの健康と幸せサポートプロジェクト	山形県山形市	314
21	ニバルレキレ〜! am special!〜	わかちあい@東京	東京都全域	500
22	東日本大震災・山梨県内避難者と支援者をつなぐ会	避難者交流・相談サポート事業	山梨県全域	413
23	(特活)臨床心理オフィスBeサポート	静岡県に避難している子どもへのこころのサポート事業	静岡県全域	320
24	とっとり震災支援連絡協議会	震災避難者総合支援事業	鳥取県全域	536
25	ひろしま避難者の会「アスチカ」	県外避難者の生活支援事業	広島県全域	500

三菱重工 みやぎ・ふくしま ミニファンド

三菱重工 みやぎ・ふくしま ミニファンド 2012年度助成 対象支援期間:2012年10月1日~2012年12月31日

第一期				
1	りあんの会	コミュニティカフェベースりあん開店準備事業	宮城県南三陸町	10
2	くりの木ひろば	くりの木ひろば～東日本大震災被災地支援 子どもの遊び場づくり～	宮城県気仙沼市	5
3	あんでねっと@大谷	江東区民祭り出店事業	宮城県気仙沼市	10
4	(公社)シャンティ国際ボランティア会	オイシイ商品開発～地域の食材レシピづくり～	宮城県気仙沼市	5
5	(特活)TreeSeed	五右衛門ヶ原仮設住宅交流会	宮城県気仙沼市	10
6	津谷大沢区振興会	仮設集会所の備品整備	宮城県気仙沼市	5
7	八瀬ぶどう愛好会	芋煮会@八瀬ぶどう畑	宮城県気仙沼市	5
8	大島椿染めの会	椿染め体験会の実施	宮城県気仙沼市	10
9	(一社)復興応援団	南三陸町地元漁師によるブルーツーリズム事業開発及び拡大プロジェクト	宮城県南三陸町	5

No.	団体名	事業名	事業地域	助成額
8	(特活)いわき放射能市民測定室	たらちね甲状腺検診プロジェクト	福島県いわき市	500
9	ふくしまの子ども支援協議会	ふくしまの民間子ども支援人材を育成するプログラム	福島県全域	498
子ども☆はぐくみファンド 2013年度継続支援事業<第1期・3年次/第3期2年次> 対象支援期間:2014年1月1日~2014年12月31日				
1	(特活)にじいろクレヨン	事務局機能の再構築を通じた組織の基盤強化事業	宮城県石巻市	500
2	(特活)未来図書館	一人ひとりの生き方としてのキャリアを考える学び事業	岩手県全域	500
3	(特活)うれし野子ども図書室	広げよう!子どもと読書の輪in岩手 II	岩手県大船渡市、陸前高田市	463
4	(特活)ロージーベル	少年の自立更生を支援するための人材育成・ネットワーク構築事業	宮城県仙台市	500
5	(一社)マザー・ウイング	震災後の乳幼児家庭支援活動	宮城県仙台市	471
6	気仙沼あそびーばーの会	気仙沼あそびーばー「気仙沼に子どもの遊び場を!」	宮城県気仙沼市	500
子ども☆はぐくみファンド 2014年第4期単年度支援事業 対象支援期間:2014年4月1日~2015年3月31日				
1	CAP岩手	児童養護施設に人権教育プログラム(CAP)を届ける	岩手県全域	172
2	(一社)三陸ひとつなぎ自然学校	地域の未来の担い手育成のための子ども支援とコミュニティ形成	岩手県釜石市	250
3	南町柏崎青年会	みなみまちcadocco子どもひろば協働事業	宮城県気仙沼市	249
4	(特活)奏海の杜	音楽で自分を表そう!障がい児の活動	宮城県南三陸町	250
5	TEDIC [現:(特活)TEDIC]	学びを通じた放課後の居場所作り	宮城県石巻市	250
6	(特活)みやぎ子ども養育支援の会	東日本大震災被災地児童養育支援事業	宮城県石巻市	250
7	(特活)ワンファミリー仙台	居所を喪失した被災待少年等への生活支援事業	宮城県仙台市	250
8	マイタウンマーケット実行委員会	仮設住宅に手づくりの町をつくる「マイタウンマーケット」	福島県新地町	220
9	(特活)本宮いどばた会	子育てひろばでつなげよう希望の輪	福島県本宮市	128
10	(特活)World Open Heart	加害者家族の子どもたちの支援	岩手県・宮城県・福島県	250
子ども☆はぐくみファンド 2014年度継続支援事業<第2期・3年次> 対象支援期間2014年7月1日~2015年6月30日				
1	(特活)こそだてシップ	ママサロンこそだてシップ	岩手県大船渡市	484
2	(特活)和	石巻市における一時保育事業と災害時の子育て支援のための組織作り事業	宮城県石巻市	500
3	(特活)アフタースクールばるけ	障がい児とその家族の地域生活支援スキルアップ体制構築と地域社会への啓発事業	宮城県仙台市	400
4	(特活)まごころサービス福島センター	連合体としての事業の方向性等の検討と基盤強化事業	福島県福島市	500
5	チャイルドラインこおりやま	子どもの心の声を電話で聴くチャイルドラインの実施と組織基盤整備事業	福島県郡山市	500

サントリー・SCJ フクシマ スム プロジェクト 福島子ども支援NPO助成

サントリー・SCJ フクシマ スム プロジェクト 福島子ども支援NPO助成 第一期 対象支援期間:2013年1月1日~2013年12月31日

1	(特活)放射線衛生学研究所	市民科学者養成講座・キュリー学園～放射線・放射能とどう向き合うか～	福島県全域、新潟県、栃木県など福島周辺	200
2	(特活)福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会	福島県の児童養護施設の健康	福島県全域	200
3	(特活)いわきNPOセンター	親子の遊び広場「とことん広場」	福島県いわき市	330
4	会津地方里親会	ふくしまの里親支援と児童福祉促進事業	福島県	200
5	(特活)しゃり	双葉町の親子が繋がっていく「あそびひろば」	埼玉県加須市	125
6	(特活)柏崎まちづくりネットあいさ	避難者支援団体を支援する事業	新潟県柏崎市	188
7	ドリームハウス	ふくしまファミリー寄り添い事業	新潟県新潟市	200
8	(特活)MMサポートセンター	原発避難発達障害児への支援・相談	福島県全域、全国	500
9	(公財)福島県国際交流協会	福島に暮らす外国の子どもサポート	福島県全域	500
10	小国からの笑顔	福島母子リフレッシュプログラム	福島県福島市	390
11	(特活)郡山ベップ子育てネットワーク	遊びを通じた子育て環境作り	福島県郡山市	471
12	子ども支援フェイスブックプロジェクト [現:(特活)子ども支援フェイスブックプロジェクト]	子ども未来再生計画	福島県全域、山形県全域	458

No.	団体名	事業名	事業地域	助成額
12	(一社)Live on	震災遺族・遺児を対象としたグリーフケアの情報提供	岩手県・宮城県・福島県	25
13	(特活)勿来まちづくりサポートセンター	子育て世代「ママサロン」の開催事業	福島県いわき市	50
14	(特活)つながっへ南相馬	仮設住宅集会所での「癒しのサロン」活動	福島県南相馬市	20
15	NPO Earth Angels	県北地区における母親の健全な子育て環境を維持するためのメンタルケア推進事業	福島県福島市、二本松市、郡山市	50

No.	事業テーマ名	事業地域	採択金額	No.	事業テーマ名	事業地域	採択金額
中小企業庁「創業補助金」(2013年6月～)							
中小企業庁「地域需要創造型等起業・創業促進事業」(創業補助金) 第1回公募(第二次締切分) 採択決定:2013年6月							
1	地域発展に寄与するコミュニティビジネス企業の設立(農産物直売所を併設したコンビニ)	岩手県	200	11	個人のクリエイティブな活動をビジネスにする場(イベント)創出事業	福島県	200
2	故郷の森と里山再生による自然エネルギー活用事業の展開	岩手県	200	12	水耕栽培による高齢者・障がい者の雇用拡大	福島県	200
3	英語レッスン付きの民営学童保育の展開	岩手県	200	13	地域の特色を生かした「お菓子」づくり事業	福島県	200
4	地域資源を活用した「安心・喜び・感動」提供型文具店の開業	宮城県	200	14	国内海外に向けた福島伝統工芸の新しい形	福島県	700
5	障害者雇用(就労継続支援A型事業)による、業種ワザビ事業の展開	宮城県	200	15	クラウドとITを用いたスマートフォン向け計測サービス事業の展開	福島県	500
6	被災地山元町における職場の創出と障害者の就労支援のためのトマトプロジェクトの実施	宮城県	200	16	ビューティファースタジ事業の展開	福島県	500
7	企業組合GeekSocietyを設立しての、Factory-lib事業の展開(休眠知的財産プラットフォーム構築)宮城県	宮城県	700	17	オリジナル民芸品「起き上がりフラガール」の新商品開発および展開	福島県	200
8	女性が立ち上げる被災地の高齢者への身近な介護	福島県	200	18	地域資源「そば」を活用した洋菓子の開発、製造と販路開拓事業	福島県	200
9	バリエアを囲んで縁を結ぶスペイン風家庭料理店	福島県	200	19	歴史的建造物の有効活用と地場産品販売による賑わい創出事業	福島県	200
10	在宅型勤務のクリエイター人材育成と業務モデルの構築	福島県	200	20	福島県の中小企業を中心としたホームページ作成	福島県	200
中小企業庁「地域需要創造型等起業・創業促進事業」(創業補助金) 第2回公募(第一次締切分) 採択決定:2013年7月							
1	民家改修型小規模宿泊対応サービス(介護保険外事業も含む)	岩手県	200	5	地下水及び温水を利用したシャワー式融雪装置「ラインダンス」の製造販売の実施	福島県	200
2	オールハンドマッサージによるリラクゼーション事業の実施	岩手県	200	6	高齢者等に向けた出張自動車メンテナンスサービス(WEBやスマホアプリを連携させたクラウドによる車両管理システム)	福島県	200
3	リサイズを前提とした設計の、タブレットPC用ケースの展開	宮城県	200	7	地元の伝統工芸品を使った「オリジナル雑貨ショップ&子育てカフェ」の新規開業	福島県	200
4	生きる喜びを提供するカフェ事業	宮城県	200				
中小企業庁「地域需要創造型等起業・創業促進事業」(創業補助金) 第2回公募(第二次締切分) 採択決定:2013年8月							
1	地域に密着した自立支援、介護予防型サービス事業の実施	岩手県	200	17	石巻・三陸地域の水産物と加工技術を基礎とした輸出展開事業	宮城県	700
2	カルチャースクールカフェ	岩手県	200	18	日本食のブラジル展開	宮城県	700
3	伝統的建造物を活用した飲食業	岩手県	200	19	遺伝子検査用のDNAストリップ(STH-PAS)のプリント製造販売事業	宮城県	700
4	東南アジア回教徒市場の販路開拓の事業(飲食料品卸売業)	岩手県	700	20	社内コミュニケーション改善のための研修事業の展開	宮城県	200
5	「サロンの雰囲気の中で確かな治療を行う」をコンセプトとした、鍼灸整骨院事業の展開	岩手県	200	21	被災企業に対する支援事業及び財務プランニング提案型事業の展開	宮城県	200
6	キッチンカーによる地産地消料理の移動販売事業	岩手県	200	22	はじめの一步創業支援会社の設立	宮城県	200
7	山・里・海産地連携プレーによるキッチンデリバリーキットの構築	岩手県	200	23	女性がつくる農産加工品開発と小規模農産加工所の運営立ち上げ事業	宮城県	200
8	高齢者対応のバリアフリー美容室及びハーブ(医療部外品)を使ったリラクゼーション空間の提供事業	岩手県	500	24	トレーラーハウス展示用車輦作成	宮城県	200
9	ワンストップサービスによる厨房設備のトータルサービス事業	岩手県	200	25	被災地の失業対策・再就職支援としての警備事業の実施	宮城県	200
10	地域資源の強みを活かし、地域間コラボによる外部需要を獲得するツーリズム事業の展開	岩手県	200	26	オーガニック製品や植物オイルを可溶性技術で配合したものを取扱環境・身体に優しい技術を提供、被災地のオアシスを目指す	宮城県	200
11	地域の若年層の雇用創出、地場産業の興隆を目的とした特産品販売事業	岩手県	200	27	アウトドアリビングのある家づくり	宮城県	200
12	移動店舗車両による理容美容の移動型施術サービスの展開	岩手県	200	28	配達事業を中心に地域に密着したコンビニエンスストアの実施	宮城県	200
13	難削材(チタン・インコネル等)専門の金属部品加工業の確立	岩手県	200	29	みんなのカフェ lanlan ficantの創業～おからベーグル製造・販売と親子カフェ～	宮城県	200
14	中古車販売、整備、SNSを利用したマーケティング、及びコンサルティング	宮城県	500	30	仙台におけるミュージシャンの育成と雇用	宮城県	200
15	養殖牡蠣の新ブランド開発販売、地域産業活性化への展開	宮城県	200	31	ノンジアミン・オーガニック系の美容剤を利用した女性の身体に配慮した美容院	宮城県	200
16	くつろげる動物雑貨店の経営	宮城県	200	32	生きる力を育む事業。「成長」を理念に、今を打破できる問題解決能力と未来を培う「生きた」創造力を育む園	宮城県	200

No.	団体名	事業名	事業地域	助成額
10	(一社)南三陸町復興推進ネットワーク	ふるさと学習会を通じて子ども達が撮った町の記録を残す!	宮城県南三陸町	10
第二期				
11	気仙沼みなみ商工ネット	ひとまちづくり委員会	宮城県気仙沼市	10
12	南三陸志津川福興名店街運営組合	年末大売出しの広告宣伝事業	宮城県南三陸町	10
三菱重工 みやぎ・ふくしま ミニファンド 2013年度助成 対象支援期間:2013年10月1日～2013年1月31日				
1	(一社)ボランティアステーション in 気仙沼	気仙沼市内仮設住宅自治会代表者の交流と自立の促し支援活動	宮城県気仙沼市	5
2	蔵内之女組	「海の駅よりみち」における新メニューの試食会と基盤整備	宮城県気仙沼市	10
3	(特活)とめタウンネット	「編んだもんだら」4拠点交流会	宮城県気仙沼市	10
4	気仙沼みなみ商工ネット	まちづくりコミュニティ新聞の発行と地縁市等の開催	宮城県気仙沼市	10
5	内の舘2区行政区	被災により解散した四行政区の住民による合同お別れ激励会の開催	宮城県気仙沼市	10
6	内の舘3区行政区		宮城県気仙沼市	10
7	幸町1区行政区		宮城県気仙沼市	10
8	幸町3区行政区		宮城県気仙沼市	10
9	小原木中学校仮設住宅親睦会	仮設住宅住民合同の年越し行事	宮城県気仙沼市	5
10	唐桑町大沢地区防災集団移転期成同盟会	「大沢カエル」～初詣者への温かいものと語らいの場の提供～	宮城県気仙沼市	10
11	南町柏崎青年会	本格復興に向けた賑わいの創出と地域コミュニティの継承	宮城県気仙沼市	10
12	ママサークルももこ	新年会と心のケア講座の実施	宮城県南三陸町	5
13	寄木契約会	「1年の頑張りと新しい年への飛躍」に向けた第2回元氣餅つき大会	宮城県南三陸町	5
14	いぶし銀倶楽部	いぶし銀倶楽部メンバー、他地域との交流活動	宮城県南三陸町	10
15	平成の森アート実行委員会	いんでねが鍋まつりの開催	宮城県南三陸町	10
16	(特活)底上げ	繋ぐ想い～若者気仙沼南三陸交流会～	宮城県南三陸町	10
17	(特活)笑顔のお手伝い	仮設住宅に居住する地域高齢者と外国人介護ヘルパーの交流会・新年会・介護予防教室	宮城県南三陸町	10
18	楯葉町内郷白水水急仮設住宅自治会	仮設住宅での新そばを食べる会の開催	福島県いわき市	5
19	みんなとまちプロジェクトいわき支部	カロムでつなぐみんなとまちプロジェクト	福島県いわき市	10
20	平下高久仮設住宅自治会	下高久仮設住宅住民の交流会	福島県いわき市	10
21	(特活)勿来まちづくりサポートセンター	なこそ交流スペースでのサロン活動支援事業	福島県いわき市	10
22	(特活)元気の素カンパニー以和貴	子育てに不安を抱えるお母さんたちのためのトークショー及び交流会の開催	福島県いわき市	10
23	福島華僑華人総会いわき分会	福島県いわき地区華人華僑新春会の開催	福島県いわき市	10

善光寺出開帳両国回向院復幸支縁基金				
善光寺出開帳両国回向院 復幸支縁基金 対象支援期間:2014年4月1日～2014年9月30日				
1	Color Studio 川村工房	大人のカラーセラピー	岩手県釜石市・大槌町	50
2	読書ボランティアおはなしころりん	移動子ども図書館事業	岩手県大船渡市、陸前高田市	25
3	子育てサークルきつびんきつず	バス遠征でリフレッシュ!	岩手県大船渡市	20
4	(公社)日本駆け込み寺仙台支部	出張駆け込み寺に係る相談員養成事業	宮城県仙台市	50
5	心の相談室	宗教者による電話相談事業	地域指定なし	50
6	(特活)せんだいファミリーサポート・ネットワーク	ノーバディズパーフェクト講座(カナダの親支援プログラム)の開催	宮城県東松島市・名取市	50
7	(特活)仙台傾聴の会	傾聴サロン(被災者等孤立している人の対面相談)事業	宮城県仙台市・名取市・岩沼市・亘理町	50
8	網地島ふるさと楽好	網地島ふるさと楽好 ～被災地の児童養護施設の子どもたちを笑顔に～	宮城県石巻市	50
9	(特活)仙台グリーフケア研究会	教育の現場で生と死に向き合うためのワークショップ	宮城県仙台市	40
10	(特活)ワンファミリー仙台	精神疾患があり、複数の課題をかかえる被災された生活困窮者等への支援に関するスーパーバイズ	宮城県仙台市	50
11	(特活)仙台夜まわりグループ	生活応援おそうじ隊	仙台市及び周辺地域	50

No	事業テーマ名	事業地域	採択金額	No	事業テーマ名	事業地域	採択金額
47	人口増加が見込まれるエリアへの軽食サービス事業の進出	宮城県	500	61	美容室の「お客様の声」から誕生したリフレッシュサロン「おもてなしの心…」	福島県	200
48	被災離島に於ける特産加工品の高度利用化技術	宮城県	500	62	地域食材を生かしたハワイアン料理の提供	福島県	200
49	自動車リサイクル事業におけるリユース促進による海外需要の創出	宮城県	700	63	医療用ウィッグ等の体験販売の実施	福島県	200
50	インドネシア飲料水供給(専用水道)事業の展開	宮城県	700	64	お客様の要望に決め細やかにこたえるセミオーダーメイド方式パン製造販売事業の展開	福島県	200
51	地域の人々に合った安全な伝承料理や、地域農産物による食育を目指す宅配事業	福島県	200	65	須賀川で初めてのボルダリングジム経営	福島県	200
52	Theニッポンのごはん 会津おにぎり編	福島県	200	66	「本領発揮!縫製によるかがやく女性の職場の展開」	福島県	200
53	独自の養殖技術を生かした高級鑑賞魚等の養殖技術の確立と生産者、問屋への技術指導などを行うコンサルタント事業	福島県	200	67	被災者と地域の人々を繋ぐカフェの展開	福島県	200
54	会津特産みしらず柿を原材料とした機能性食品素材の開発・製造・販売	福島県	200	68	これまで葬祭会場のなかった地域に施設を設けることにより、地域の利便性の向上を図り、付随して地域商業の利用、地元雇用推進等により、地域活性化を担う役割を持つ事業の展開	福島県	200
55	子供の食育をテーマとしたパン製造販売店舗の運営	福島県	200	69	強アルカリ電解水の販売	福島県	200
56	会津伝統工芸と異業種技術とのコラボレーション	福島県	200	70	住宅まるごと修理・清掃サービスの展開	福島県	500
57	老人ホームやデイケアなどの高齢者向け施設からの受注販売をメインとした洋菓子の企画・製造・販売事業の展開	福島県	200	71	コミュニティサロン機能および農産物直売所機能を持った、高齢者にやさしいコンビニエンスストアへの業態転換	福島県	500
58	主婦力を活かした伝統野菜と地元食材を使ったご当地おこわの開発・調理・販売	福島県	200	72	世代交代を契機とした取次所開設、全国宅配事業等の展開によるクリーニングサービスの充実化	福島県	500
59	法人化による牛乳宅配事業の拡大と宅配水営業事業の新規参入	福島県	200	73	地域の障害者の雇用創出、地産地消を推進する手作り・低価格の弁当製造及び独居高齢者向け宅配サービスの展開	福島県	500
60	地域の若い農業後継者の作る農作物の消費拡大を目指す手作りアイス工房「アイスマルシェ」の開発事業	福島県	200	74	6次化麵の飲食提供店舗運営及び自社6次化商品の全国販路拡大	福島県	500

中小企業庁「地域需要創造型等起業・創業促進事業」(創業補助金) 第3回公募(第二次締切分) 採択決定:2014年2月							
1	介護福祉と生涯教育における地域への貢献と生きがい作り	岩手県	200	27	地産地消をコンセプトとした、焼肉レストランの展開	宮城県	200
2	高齢者が抱える住まいに関する悩みを解決し、生涯に渡り、安心、安全の生活をサポートする事業	岩手県	200	28	商業施設にフォーカスした「集客につながる」デザイン事務所の展開	宮城県	200
3	地熱利用住宅に係る住宅基礎コンクリート事業への参入	岩手県	200	29	被災地の建築需要に対応した測量サービスの展開等	宮城県	200
4	新たなジュエリー創出、そして地域産業活性化と需要促進	岩手県	200	30	「食材王国みやぎ」の食文化を次世代へ継承	宮城県	200
5	震災からの「復興ホテル」の建設及び運営	岩手県	200	31	高齢者介護を通じ、被災地石巻市・女川町への地域貢献及び地域の復興に寄与するリハビリ特化型通所介護事業	宮城県	200
6	復興推進事業に基づく訪問リハビリテーション事業の実施	岩手県	200	32	石巻における救命いかだ整備事業の展開	宮城県	200
7	低価値水産品の加工技術開発及び商品化と販路並びにブランドの形成	岩手県	200	33	被災地における戸建及び集合住宅の外壁塗装サービスの展開	宮城県	200
8	交通事故による破損・損壊物件の復旧専門工事請負業	岩手県	200	34	地域の一次産業生産者と消費者を調理人が繋ぐ地域循環型コミュニティレストランの展開	宮城県	200
9	介護保険サービスのリハビリに特化した通所介護事業の実施	岩手県	200	35	若者から大人まで楽しく学べるドラム教室の展開	宮城県	200
10	北欧に根付く「古き良きもの手仕事品」の輸入・販売を通じた北欧文化の紹介と新市場の創出	岩手県	200	36	発達に遅れのある未就学児へスポーツ療育を通じた家族支援事業	宮城県	200
11	水産加工工程で生じる廃棄物を活用した新製品の開発	岩手県	200	37	地球環境に優しい幸せになる衣料品の企画制作・販売事業の実施	宮城県	200
12	和カフェ店舗展開	岩手県	500	38	顧客ニーズに応えた建設系資機材のワンストップ運搬設置サービスの提供	宮城県	200
13	衣料リサイクルシステム構築事業	岩手県	700	39	夢ある旅行をサポートする宮城の地域資源を活用したお土産販売事業	宮城県	200
14	南三陸町で耕作放棄地を再開墾し農業振興を実現する	宮城県	200	40	女性と子供のニーズに対応した地産地消型オリジナルパンの製造販売	宮城県	200
15	エイジングケア&トータルビューティーに特化した美容室の展開	宮城県	200	41	利用者本位の快適な介護タクシー事業・民間患者搬送事業の実施	宮城県	200
16	地元の自然素材を使った注文住宅新築・リフォーム工事の実施	宮城県	200	42	インフォームド・コンセントを重視した、飼い主とペットに優しい動物病院の開設	宮城県	200
17	地域に一般診療、サービスとともに専門診療を提供する動物病院の展開	宮城県	200	43	糖質やカロリーを抑えたお菓子で、誰もが美味しく食べられ健康で太りづらい社会を創造する菓子業界活性化事業	宮城県	200
18	宮城県内におけるオステオパシー施術の実施	宮城県	200	44	直接一頭買いによる松阪牛専門店展開	宮城県	200
19	こだわりの醸造酒と地元食材を用いた料理で癒しの時間を提供する飲食店事業	宮城県	200	45	3Dプリンター製造による金管楽器用消音機の製造販売事業拡大の実施	宮城県	200
20	新ブランド立ち上げによる鶏の唐揚げの移動販売	宮城県	200	46	高齢者・障害者のための予約制地域密着介護タクシー事業の展開	宮城県	200
21	東北発の高校生向けフリーペーパー「ch」等の展開	宮城県	200	47	不登校も勉強嫌いも勉強すっ! サクラ咲かす石巻学習支援事業	宮城県	500
22	リハビリと鍼灸の融合	宮城県	200	48	地元商店街振興を目的としたカフェ&バルの新事業展開	宮城県	500
23	根拠に基づいた慢性痛ケアを目的としたリハビリ型整骨院の開設	宮城県	200	49	地域高齢者を支える食(健康)・経済(自活)・存在価値(人との関わり)の創造と小規模自営業者の販路拡大事業	宮城県	500
24	東北における天然の八雲風化貝カルシウム販売事業の展開	宮城県	200	50	伝統芸術を身近に感じられる和物輸出事業の展開	宮城県	700
25	仙台駅東口における家庭料理に特化した飲食店の展開	宮城県	200	51	カジュアルな和食店の展開	福島県	200
26	フルーツの特殊カット技術を用いたフルーツギフトの販売事業の展開	宮城県	200	52	まちの未来をデザインする事業の展開	福島県	200

No	事業テーマ名	事業地域	採択金額	No	事業テーマ名	事業地域	採択金額
33	ミャンマー人の留学生・研修生を獲得する事業の展開	宮城県	700	49	高品質かつ低価格の省エネ蛍光灯の販売	福島県	200
34	花と陶芸の体験教室・地域コミュニケーションを深める出張教室の展開	宮城県	200	50	パン宅配販売業	福島県	200
35	(住宅再建に係る)住宅基礎コンクリート、外構工事事業への参入	宮城県	200	51	乳酸菌効果の高い子供とお年寄り向けのキムチの素製造・販売	福島県	200
36	介護予防のソーシャル・ビジネス機能を持つ、介護事業所の開設	宮城県	200	52	放射能除染専門会社による除染事業および関連する清掃事業の実施	福島県	200
37	被災地石巻市にてスイーツでの笑顔の復興、新店舗建設事業	宮城県	200	53	チームTシャツ・ユニフォーム・ブルゾン等のプリント加工の実施、オリジナルユニフォーム製作の展開	福島県	200
38	石巻の家庭料理とジビエ料理のレストラン「日和キッチン」の事業拡大と法人化	宮城県	200	54	犬の糞袋回収装置の製造及び国内外への販売事業	福島県	700
39	新店舗建設の実施(救命いかだ製造)	宮城県	200	55	地域の人たちの集まる場所を実現	福島県	200
40	トータルビューティー ワンストップ経営化	宮城県	200	56	はたらか会ドル(会津のアイドル)プロジェクト実施	福島県	200
41	シニア起業家向けのレンタルオフィス賃貸業	宮城県	200	57	飲食の力で地域に活力を取り戻す事業を展開する	福島県	200
42	和太鼓スクール・物販・演奏活動	宮城県	200	58	barber Amber(バーバー・アンバー)理容業の実施	福島県	200
43	委託商品のWeb販売業、レンタルスペース業、女性向け飲食店開業・運営コンサルティング業の展開	宮城県	500	59	和菓子の新しい商品提供を行い地域の多様なニーズに対応できる小売店の開業	福島県	200
44	婦人服インポート&トータルコーディネートセレクトショップの実施	宮城県	200	60	エステとネイルで美しく前向きに	福島県	200
45	地域コミュニケーションの中心となるカフェの実施	宮城県	200	61	世代を繋ぐ笑顔の(ネイルアート)ギフトサービス販売の展開	福島県	200
46	宮城県産高品質農産物を活用した本格的な六次産業の立ち上げ	宮城県	700	62	コンテナハウス利用による移動可能な教室の展開	福島県	500
47	福島県産の食材を利用した地域密着型イタリア料理店の展開によるにぎわい創出の事業化	福島県	200	63	社会的企業及びNPOのコンサルティング事業の展開	福島県	200
48	ICTタグアプリ対応アニメキャラクター名刺の製造事業実施と海外展開	福島県	700	64	石油・化学産品向け特殊プリンタの海外販売・保守事業の展開	福島県	700

中小企業庁「地域需要創造型等起業・創業促進事業」(創業補助金) 第3回公募(第一次締切分) 採択決定:2013年12月							
1	地域需要・地域コミュニティ形成に資する飲食事業の実施	岩手県	200	24	自然食で人々のカラダも心も健やかにする食品販売事業の実施	宮城県	200
2	障害者や高齢者が協働を実現する施設園芸事業の実施	岩手県	200	25	廃校を活用した人材キャリア育成とまちづくりプロジェクトの実施	宮城県	200
3	三陸沿岸に100年続くワイン文化を創造する。	岩手県	200	26	食物の持つ効能でおいしく味わいながら体の悩みを改善していく大人がゆっくりつづる飲食店	宮城県	200
4	夏油高原への植栽活動による地域観光事業の展開	岩手県	200	27	デイサービスを活用した外出機会の創出及び機能回復と、新たな生きがい作り	宮城県	200
5	古民家を利用した地域活性化事業	岩手県	200	28	成果報酬型サービスを組み合わせ地域活性化サービスの提供	宮城県	200
6	家庭で誰でも作れる米粉パン「出前米粉パン教室」の実施	岩手県	200	29	夫婦問題を主とした女性専門のカウンセリング業などの展開	宮城県	200
7	奥州市を中心とした情報を掲載するWEBマガジン「奥州ライヴ」の創刊	岩手県	200	30	被災地における快適な暮らしと癒しの環境を提案する花トレイ・花マットの作出と利用に関する事業の展開	宮城県	200
8	ドライアイス洗浄技術によるメンテナンス事業の展開	岩手県	200	31	発達障害者スタッフによる「こころが優しくなるカフェ」事業の展開	宮城県	200
9	花器・花材の販売を通して花を使った楽しい心豊かな生活を目指す	岩手県	200	32	経営シミュレーション・ゲーム等を用いた能力開発の実施	宮城県	200
10	地域の高齢化に合わせた手技治療による美容と健康をテーマとした鍼灸整骨院事業の展開	岩手県	200	33	高齢者向けのパソコン教室及び受講者同士のネットワーク構築	宮城県	200
11	天然酵母パン製造販売並びに地産地消型コミュニティカフェの展開	岩手県	500	34	仙台的中小企業に特化した選択制確定拠出年金の導入提案の実施	宮城県	200
12	職人不要複数選択型十割そば事業の展開	宮城県	200	35	中小・小規模事業者と研究機関をマッチングする産学連携システムの構築	宮城県	200
13	地元野菜を使ったジェラート専門店の展開	宮城県	200	36	仙台市におけるインターネットサービスのトータルサポート事業の展開	宮城県	200
14	伝統的でオリジナルな木工事業の展開	宮城県	200	37	仙台限定セミナーポータルサイトと講師育成ビジネスの展開	宮城県	200
15	高齢者が気軽に利用できる送迎を含めた美容室の展開	宮城県	200	38	宮城の女性を元気に!!女性の細やかな目線を生かした女性メインの雇用促進ならびに癒しサービスの店舗展開	宮城県	200
16	荒廃する森林の整備と廃棄される資源を有効活用するための事業協同組合の設立	宮城県	200	39	スマートフォン・タブレット端末用アプリを利用した書籍、パンフレットによる企業および商品のブランディング事業の展開	宮城県	200
17	松島産の海産物のECサイト通販及びカタログ通販事業の実施	宮城県	200	40	故郷仙台に戻り、地域のお客様とスタッフの頭皮、皮膚を守る安全、安心な美容室、理容室の展開事業	宮城県	200
18	宮城県の中小企業をターゲットとした海外市場初進出支援事業の展開	宮城県	200	41	仙台市における子育てを終えた世代向け住宅リフォーム事業の展開	宮城県	200
19	肌と心のケアができる女性交流サロンの展開	宮城県	200	42	震災復興地域の仙台におけるドレスコーディネート販売について	宮城県	200
20	個人の症状にあわせたフィットネスDVDの定期販売などの展開	宮城県	200	43	多賀城・七ヶ浜を中心とした仙塩地区の地域活性化を実現するコミュニティカフェ事業	宮城県	200
21	カラフル野菜スープと国産シルクアイスによるチャレンジド利用の実施	宮城県	200	44	高気圧酸素で地域住民の健康増進&雇用創出	宮城県	200
22	仙台市における家賃保証付き賃貸物件のリノベーション事業の展開	宮城県	200	45	フルーツ特殊カット技術を用いたフルーツ販売及び指導教室等の展開	宮城県	200
23	地元の食材、天然酵母を使用した安全で味わい深いパンの製造及び販売	宮城県	200	46	震災地域復興を目指し地域コミュニティ作りに基づく墓石の提供等	宮城県	200

No.	団体名	事業名	事業地域	助成額
自主事業				
志津川タコ復興プロジェクト 対象支援期間:2012年7月1日~				
1	宮城県漁業協同組合志津川支所	志津川タコ復興プロジェクト	宮城県南三陸町	202
東北のお正月を応援プロジェクト 対象支援期間:2012年12月1日~2013年1月31日				
1	気仙沼たすけあいの会	新年お正月交流会	宮城県気仙沼市	2
2	平成の森アート実行委員会	平成の森新年会	宮城県南三陸町	10
3	波伝谷仮設住宅団地自治会	波伝谷の文化財を復興に活かそう! 新春交流会	宮城県南三陸町	13
4	東松島市小野駅前応急仮設住宅自治会	おんなたちの小正月から明日の暮らしを考える	宮城県東松島市	19
5	元気っこ山元	お正月 餅つき大会	宮城県山元町	5
6	公共ゾーン仮設住宅団地ふれあいの会	新しい年の夜空に、元気で希望の華を咲かせよう!! ~自立と復興を目指して、新年花火大会	宮城県亶理町	19
7	みんな共和国	南相馬お雑煮フェスティバル	福島県南相馬市	19
8	(特活) まちづくり NPO新町なみえ	お正月「あつまっ会」	福島県二本松市	10
あづめっちゃ 対象支援期間:2013年4月1日~2013年9月30日				
1	ダンス幼稚園実行委員会	ダンス幼稚園	宮城県仙台市	32
2	(一社)キッズ・メディア・ステーション	石巻日ごと新聞	宮城県石巻市・東松島市・女川町	34
3	(特活) Switch	ユースサポートフューチャーセンター☆高校生インターンシッププログラム	宮城県仙台市・石巻市・東松島市	63
4	(特活) 笑顔のお手伝い	多文化共生社会をめざし、被災地における外国人居住者の生活・就労支援	宮城県気仙沼市・南三陸町・石巻市・仙台市	35
5	(特活) 亶理いちごっこ	亶理いちごっこお話し隊活動	宮城県亶理郡亶理町、他	35

No.	事業テーマ名	事業地域	採択金額	No.	事業テーマ名	事業地域	採択金額
53	青少年スポーツ振興の促進と高齢者の社会参加をサポートする地域支援型接骨院	福島県	200	68	福島県の復興のための放射線物質除染作業の実施	福島県	200
54	地域の雇用創出と地域産業の活性化を実現する電子部品及び通信機器の製造事業	福島県	200	69	雇用の維持と異業種連携によるモノづくり	福島県	200
55	喜多方産コシヒカリの米粉を使った「喜多方もちもち中華ボール」の商品開発・販路開拓事業	福島県	200	70	法人化による近未来農業事業への展開	福島県	200
56	地域資源である蔵を利活用した地産地消を推進し、「おもてなし」する飲食店の展開	福島県	200	71	省エネを活用した古民家の再生と地域復興	福島県	200
57	東北地方における移動可能工作物(トレーラーハウス)の販売	福島県	200	72	マンガ作家と被災地を結びイベントの実施及び被災地企業との連携によるマンガキャラクターを使った商品開発の展開	福島県	200
58	ペット(犬猫)家族支援事業	福島県	200	73	除染足場工事により福島県及び宮城県の除染作業をサポートし復興事業に貢献する事業及び新規雇用創出事業	福島県	200
59	中古車を有効活用しレンタカー、カーリース、中古車販売買取店	福島県	200	74	福島・宮城両県で生産・加工された食品等の関東への貨物自動車運送	福島県	200
60	多目的、ギャラリー喫茶 『夢のかけはし』みんなの広場	福島県	200	75	お持ち帰り寿司「すし和」	福島県	200
61	地域密着型通所介護事業所(デイサービスセンターボエム)の展開	福島県	200	76	福島県内の復興支援団体や中小企業へのICT支援とICT雇用の創出	福島県	200
62	ココロもカラダも癒され、笑顔がひろがる女性のためのサロンづくり	福島県	200	77	製箱技術を活かした「和テイスト」の日用品の製造直販事業への展開	福島県	500
63	農家の女性達による地域初・産直カフェ事業の展開	福島県	200	78	地域完結型の流通事業	福島県	500
64	福島地域での出張 理容・美容事業	福島県	200	79	福島県の復興は太陽光発電と経営指導から頑張ろう	福島県	500
65	特許を受領された魚内臓取り具の新規創業に伴い、雇用促進を図りつつ、地域経済の活性化を行う新商品を提供する事業	福島県	200	80	カーボンバッテリーと蓄電池ユニットによる環境対応製品の販売事業	福島県	500
66	地産地消をモットーに地元地産食材を使った自家製ラーメン店で働く人みんなが感動する店舗作り	福島県	200	81	コスロリショップ&ECサイトの中国展開	福島県	700
67	地域の農畜産物生産者とともにおいしいもの作りを目指すイタリアンバル事業の展開	福島県	200				

中小企業庁「創業促進補助金」(先行受付分) 採択決定:2014年4月							
1	女性が自分を見つめ直し価値を見つける事で、自分自身で輝き、笑顔で元気になるサロンの展開	岩手県	200	25	仙台の庭の樹で「人と木と暮らし」が循環する生産と生活の提案	宮城県	200
2	「みんなが笑顔になるケーキ屋さん」プロジェクト	岩手県	200	26	ワンコイン単元学習指導と脳に良い食事を提供するリビング型学習塾の展開	宮城県	200
3	3S活動(整理・整頓・清掃)を主体とした人材育成事業の展開	岩手県	200	27	未来を担う子ども達に「生きる力」を提供するそろばん教室の展開	宮城県	200
4	地域初の脱毛エステサロンと美容ネットワークビルの構築	岩手県	200	28	仙台市における家賃保証付き賃貸物件リノベーション事業の展開	宮城県	200
5	地域コミュニティの活性化と高齢者への訪問美容を提供する美容室の展開	岩手県	200	29	片麻痺の方でも一人で使える「足こぎ車いす」販売事業の展開	宮城県	200
6	地域社会における施設の需要や、働く親のための乳幼児保育支援の実施	岩手県	200	30	ヨモギ栽培を通じた耕作放棄地の有効活用による農家支援と地元の雇用推進	宮城県	200
7	首都圏と地方連携の実施によるIT案件を盛岡にて消化するニアショアの展開	岩手県	200	31	地域に根ざした生花店と人々とのコミュニティを融合させた花屋	宮城県	200
8	デザイン性の高いDIY(手づくり)家具、インテリア小物の企画、製造、販売	宮城県	200	32	会津の新鮮野菜・特産物を使った創作ピッツァカフェの実施	福島県	200
9	豊富な知識と技術を活かしたお客様目線のPLCソフトウェア製作事業	宮城県	200	33	幼児から大人への英会話教室を通じて、会津のグローバル化に貢献し、被災地である福島県に海外観光客を誘致する事業	福島県	200
10	「おもてなし」をコンセプトとした地域密着型美容院の展開	宮城県	200	34	「ヨガ」を通じた地域住民の生活の質向上における提案サポートおよび会津の伝統工芸品(地域資源)を活用した新商品の開発販売	福島県	200
11	自立歩行困難者への移動助成及び生活援助サービスの展開	宮城県	200	35	瀬戸内香る香川うどん店を福島で展開	福島県	200
12	時代のニーズに合った、ユーザー満足度の高い自動車の整備・委託販売事業	宮城県	200	36	小型スーパー開業による過疎地域の需要対策モデルの創造	福島県	200
13	船舶に特化した特殊窓磨き・コーティングサービスの展開	宮城県	200	37	自家生産した米と福島県産のフルーツを使用した洋菓子事業の展開	福島県	200
14	縫製初心者のための指示書付きオーダーパターン及びオーダー衣装製作等による服飾業の展開	宮城県	200	38	地域の高齢者等を対象とした鍼灸接骨院展開による賑わい創出事業	福島県	200
15	地域高齢者・障害者の生活環境支援密着型介護福祉タクシーの展開	宮城県	200	39	ダンシングマトのブランド化と地域をまとめた農産物の展開等	福島県	200
16	動画を活用したエレキギター、エレキベースの販売事業の展開	宮城県	200	40	高齢者向け介護保険適用外の「生活支援」と「終活支援」業務	福島県	200
17	お客様の心を温める焼肉店事業の展開	宮城県	200	41	介護保険法に基づくデイサービス施設の実施	福島県	200
18	ローコスト建築による被災者の住宅再建の加速	宮城県	200	42	英会話教室及び次世代学習システムを用いた「滞在型」の総合学習塾	福島県	200
19	自家製ハーブを使用したオーガニックカフェレストランの展開	宮城県	200	43	最先端ファンクショナルトレーニングを取り入れたフィットネススタジオの運営	福島県	200
20	眠った着物の有効活用で人も物も“活きる”システム作りの実施	宮城県	200	44	居宅介護支援事業所の展開	福島県	200
21	現代病のメタボ予防の改善、身体ケアをサポートするダイエットスタジオの展開	宮城県	200	45	売主に安心を提供する売却専門の不動産売却仲介及び再販業務の実施	福島県	200
22	高級レザーを使用した手作り革製品の商品企画・販売	宮城県	200	46	Jr.ゴルファー育成及びスポーツコミュニティスペース創出事業兼iPadでスマートに! ICT活用	福島県	200
23	宮城県指定伝統工芸技術を用いた新規伝統工芸品の開発と海外展開	宮城県	200	47	整備済中古商用車輛のフィリピン経済特区への輸出事業	福島県	200
24	癒しのスペシャリスト・アロマセラピスト育成事業	宮城県	200				